

BUDŌ NEWS

今月のニュース



日本・オーストリア友好 150 周年記念事業
令和元年度オーストリア共和国派遣日本武道代表团



ウィーンっ子4千人の魂を揺さぶる

日本・オーストリア友好 150 周年記念事業
令和元年度オーストリア共和国派遣日本武道代表团



日本・オーストリア友好150周年記念事業の一環として、オーストリア共和国派遣日本武道代表团（主催Ⅱ

日本武道館・日本武道協議会）が昨年11月6日から13日までの8日間、

オーストリア共和国ウィーン市へ派遣された。現地ではエルステ・バンク・アリーナ、ウィーン日本人国際

学校、国立スポーツセンターにて演武会・体験会をそれぞれ実施した。

本事業は、海外において日本武道の真髄を披露するとともに、日奥両

国の友好親善と、広く武道の国際的普及・振興を目的としている。

代表团は、団長・高村正彦日本武道館会長、副団長・弘友和夫日本武道館理事、現代武道9種目と古武道

3流派の選抜者66名に、日本武道館プロジェクト事務局等を加えた計75

名で編成。「ウィーンっ子の魂揺さぶる日本武道を」という高村団長の

結団の言葉に応えるべく、団員は一致協力して行事に取り組んだ。

現地では、演武会・ワークシヨップのいずれも盛況で、中には団員へ

鋭い質問が飛び出す場面もあり、ウィーン市民の日本武道・日本文化に

対する関心の高さを窺わせた。

■ 武道交流演武会



お見事！ 中心をひと突き！



ダイナミックに切っ先が走る



交流演武会を終えて、全員で記念撮影

● 結団式・壮行会（11月6日）

成田空港において、午前9時より結団式・壮行会が行われ、高村団長以下75名の団員のほか、臼井日出男日本武道館理事長と各道連盟代表者も出席した。

臼井理事長から「オーストリア共和国派遣事業の大成を祈念している」と壮行の言葉が述べられると、高村団長は「ウィーンつ子の魂を揺さぶる日本武道の演武を団員の皆さんに期待し、両国の友好促進につなげたい」と代表挨拶を述べた。

安井和男日本相撲連盟専務理事の発声で乾杯したあと歓談に移り、最後は三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長の音韻で万歳三唱し結団式・壮行会を締めくくった。

その後、団員は午前11時55分発の便で日本を出発。ヘルシンキで乗り継ぎ、現地時間18時30分（時差マイナス8時間）にウィーン国際空港へ到着した。

● 武道交流演武会（11月7日）

オーストリア到着の翌日、ウィーン日本人国際学校で武道交流演武会

を実施した。来賓として在オーストリア日本国大使館の町田達也臨時代理大使の臨席をいただいた。開会式では、高村団長自ら、児童・生徒により近い位置へマイクを持って歩み寄り、「日本武道は戦いの手段として誕生したが、歴史の中で、人間形成の手段に変化していった。一流の指導者・選手による演武を味わってほしい」と子どもたちに向けて述べた。

演武者は、12時間以上に及ぶ前日のフライトや時差を微塵（みじん）も感じさせない、気の漲（みなぎ）った演武を披露した。在校生は低学年が多数を占める中、長時間の演武にもかかわらず、最後まで熱心に演武を見つめていた。ワークショップでは、初實剣理方（しよじつけんりかた）一流甲冑抜刀術の団員が真剣での試し斬りを実施したあと、久保博彦校長や保護者も試し斬りを体験、大いに盛り上がった。

閉会式では、生徒を代表して中部1年の森永美悠さんが「馴染みのない武道もあったが、ワークショップで優しく教えていただいたので楽しかった」と挨拶を述べた。続いて園部喬教頭から「演武を通じて、心



高村正彦団長からフィリップ・トラットナー局長へ
兜が贈呈された

■表敬訪問



久保博彦校長が試し斬りを体験



トラットナー公務・スポーツ省局長との会談後、幹部と懇談を行った



生徒代表挨拶を行った
森永美悠さん（中学部1年）

技体のバランスの重要性を感じた」との感想が述べられた。最後に弘友副団長が「礼儀を重んじ、相手を思いやる心を育てるのが武道である。この精神を身につけ、世界に通用する人間になってほしい」と挨拶して、閉会した。

終了後、撤収作業を終えて学校を後にする頃には、興奮冷めやらぬ男女児童がチャンバラに興じる光景も見られた。

●表敬訪問（11月8日）

高村団長と弘友副団長、そして各団体代表者は、小井沼紀芳駐オーストリア日本国大使館特命全権大使の同行をいただき、オーストリア共和国公務・スポーツ省を表敬訪問。出迎えたフィリップ・トラットナー局長と面会した。

高村団長は「闘争手段から人間形成手段に発展したことが日本武道の特色である。日本では中学校武道必修化が実現し、日本人なら誰もが武道に触れることが可能な状況となった。両国の先人たちの努力によって友好150周年を迎えられたが、武道を通じて、今後の交流をさらに良いも

のにしていきたい」と挨拶。

これに対し、トラットナー局長は「武道が伝統的要素を失わず、一方で現代の知見も吸収しながら、今まで連綿と続いていることは大変素晴らしい」と応じた。

この後、高村団長から記念品の兜（かぶと）がトラットナー局長へ贈呈され、トラットナー局長からは高村団長へウイン・フィルハーモニー管弦楽団のCDと銘菓ザッハトルテが贈られた。トラットナー局長は、兜について「戦場での武具が、時代を経て役割を変えて今日まで遺されている。伝統的なものをこうした形式で保存・継承していることは意義深い」と率直な感想を述べた。

●武道セミナー（11月8日）

表敬訪問班とは別行動の団員らは、国立スポーツセンターでの武道セミナー・演武会に臨んだ。本会場は、派遣団のコーディネーターを務める上田正昭氏が30年に亘（わた）って柔道選手の指導を行ってきた場所である。

武道セミナーのタイトルは「日本の武道」で、講演者は長尾進団員（剣



迫力の相撲演武



弓道演武「巻藁射礼」



長尾進団員が
講義「日本の武道」を行った



少林寺拳法のブースでは剛法の体験と解説が行われた



参加者からの質問に丁寧に答える長尾進団員

道」が務めた。長尾団員は、日本武道が世界の格闘技・武術と同様に、戦闘技術として誕生したことを指摘しつつ、自衛的・平和的な理念に立脚していることを説明。加えて、その理念が技術にも具現化されていることに言及した。

その例として、「無手勝流」の逸話を持つ塚原卜伝や、上泉伊勢守の「転」、そして柳生石舟斎の「無刀」、さらには柔術諸流の活法・捕縄術を挙げた。また、柳生石舟斎の「昨日の我に今日は勝つべし」、宮本武蔵の「今日は昨日の我に勝つ」という言葉の通り、武道が向上心の追求を重視していることも取り上げた。

「礼」という切り口からは、お辞儀などの身体文化が、武家の礼法に由来することにも触れられた。

結びに、「柔道の創始者・嘉納治五郎が提唱した『精力善用・自他共栄』こそ、武道関係者が最重視すべき精神であり、武道修行で培った精神力・体力をもって世を裨益し、世界の多くの人々とともに発展を享受することが、日本武道の願いとするところである」と述べ「ダンケ・シェーン！」の言葉をもって締めくくった。

続く演武会では、長尾団員の講義を通じて、多様な武道の魅力を感じ取った観客は、カメラを手に興味深く演武に見入っていた。演武会後のワークショップでは、剣道のブースで長尾団員へ質問を投げかける体験者の姿もあり、長尾団員から丁寧な説明を受けると、満足した表情を浮かべ、次の体験種目へ向かっていった。

● 交流稽古会（11月9日）

現地に支部を有する柔道・剣道・弓道・空手道・合気道の5団体は、この日、交流稽古会等の行事を各々展開した。剣道の交流稽古会には弘友副団長も出席し、団員との交流を一層深めた。

● 武道演武大会（11月10日）

本事業最大のイベントである「日本武道演武大会」はエルステ・バンク・アリーナで開催された。9種目・3流派の演武を観覧すべく集った観客は、実に3950名。定刻が迫る中、場内の映像装置に武道代表団の映像が突如映し出されると観客の期

■ 武道演武大会



弘友和夫
日本武道代表团副団長



小井沼紀芳駐オーストリア
日本国大使館特命全権大使



フィリップ・トラットナー
公務・スポーツ省局長



高村正彦
日本武道代表团団長



少林寺拳法



なぎなた



弓道



銃剣道



澁川流柔術

待は最高潮に達した。

午後1時半、開会となり、両国国歌の斉唱の後、挨拶に立った高村団長は「日唄国交樹立150周年の節目の年にあたり、日本武道代表团が演武できることを大変喜ばしく思う。日本を代表する一流のメンバーによる、磨き抜かれた演武をご覧の上、日本武道の真髄を肌で感じ取っていただきたい」と力強く語った。

続いて、来賓である公務・スポーツ省のトラットナー局長が挨拶し「日唄両国は芸術分野の交流が主だったが、スポーツ分野においても交流が広がりがつつある。オーストリア人は柔道・空手道の国際大会で好成績を残しているが、まだまだ馴染みのない武道が多く、それらの最高峰たる演武を鑑賞する機会はなかった。本日、代表团への期待は大きく膨らんでいる」と述べ、両国友好の一層の発展を祈念するとともに、演武者への激励の言葉を贈った。

また、来賓挨拶として小井沼大使から「友好150周年である今年5月に、新しい令和の時代が始まった。『人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ』という意味の『令



二刀神影流鎖鎌術



空手道



柔道



合気道



剣道



相撲



初實剣理方一流甲冑抜刀術

和」という時代に、武道を通じて日本人の精神・文化がオーストリア人に理解されていくことを願う」と、新たな元号「令和」の心が日頃交流を潤すことへの願いが述べられた。

開会式ののち、弓道を皮切りに演武が始まった。3950名のウィーンつ子、そして代表団全員の視線が5名の射手に注がれる。張力を解放した瞬間に響き渡る弦の音、矢が的を貫く中的小気味良い音が、会場内の観客を魅了した。観衆の感嘆の声が漏れる中、射手は次なる矢を放つ。全ての射を終えて、静かに会場を後にする演武者に、惜しめない拍手が送られた。

12種目全てが演武を終え、閉会式では、弘友和夫副団長が「真の国際交流とは自国の文化を誇りとしながら、他国の文化を認め、尊重し、敬意を払うことから始まる」と述べた。

閉会式後のワークショップでは、演武終了後にもかかわらず、大勢の参加があり、いずれのブースも順番を待つ人の列が続いた。空手道のブースでは「空手道着を着てみたい」という参加者が多数いた。代表団の演武は、装束にまで憧憬を抱かせた

ワークショップ



ようだった。

銃剣道のブースでは「面を着けさせてくれないかしら？」と迫る女性に、銃剣道の偉丈夫たちもたじたじだった。

ワークショップ参加者の声

〈なぎなたを体験したラリッサさん〉
「柔道を習っていますが、今日はせっかくなので、初めて目にした少林寺拳法・相撲・なぎなたを体験しました。この後も、他の武道にチャレンジします」

〈瀬川流柔術を体験したりサさん〉
「合気道を地元で習おうか考えていました。姿がよく似ているのでこちらのブースにも来ました。古流柔術というものを初めて知って、しかも体験することができ、またとない経験となりました」



演武会の夜、滞在先ホテルにて、本事業に携わった関係各位を招いてフエアウェルパーティーが開催された。高村団長、小井沼大使、川端勝彦日本人会会長の挨拶ののち、奥日協会会長であり、奥弓道連盟会長でもあるレオボルド・ディタード氏による乾杯の発声で開宴した。出席

日本・オーストリア友好 150 周年記念事業 令和元年度オーストリア共和国派遣 日本武道代表团 団員名簿

(敬称略)

- ▷ 団長＝高村正彦 (日本武道館会長)
- ▷ 副団長＝弘友和夫 (日本武道館理事・元参議院議員)
- ▷ 団長秘書＝高村治子
- ▷ 外務省＝長谷川瑠美
- ▷ コーディネーター＝上田正昭 (国際柔道連盟承認七段)
- ▷ 日本武道館プロジェクト事務局＝篠寄浩之 (振興部副参事・事務局責任者)、沢登英徳 (振興部振興課主任)、白石智之 (総務部会計課主任)
- ▷ 柔道＝射手矢岬 (六段)、岡田龍司 (七段)、南保徳双 (六段)、三嶋康嗣 (五段)、寺島光済 (五段)、下山徳大 (四段)
- ▷ 剣道＝長尾進 (教士八段)、田中久夫 (教士八段)、秋山雅彦 (教士八段)、濱田英徳 (教士八段)、山崎義裕 (教士七段)、伊藤豊 (教士七段)
- ▷ 弓道＝鹿野伸一 (教士七段)、梅津匡行 (教士六段)、飯山雄介 (教士六段)、町屋大輔 (教士六段)、森本浩之 (教士六段)、清水政範 (錬士六段)
- ▷ 相撲＝榎波将史 (四段)、持留大毅 (参段)、菊池大史芽 (参段)、菅原市之助 (二段)、松原史敏 (参段)、勝呂歩紀 (参段)
- ▷ 空手道＝渡邊純一 (教士七段)、相原智之 (教士七段)、峯真太郎 (錬士七段)、中泉剛士 (六段)、吉本秀之 (錬士五段)、徳野善彦 (六段)
- ▷ 合気道＝菅原繁 (七段)、日野皓正 (五段位)、鈴木昂平 (参段)、田中響 (初段)、東筈大 (初段)、岡本大生 (初段)
- ▷ 少林寺拳法＝志村力 (准範士七段)、谷聡士 (大拳士五段)、浦田堅人 (正拳士五段)、高橋明日香 (正拳士四段)、山本望 (参段)、宮内唯成 (少拳士参段)
- ▷ なぎなた＝松井亮子 (錬士)、佐藤視代 (教士)、佐々木晶子 (教士)、西村美香 (錬士)、竹村紀子 (錬士)、見世真弓美 (四段)
- ▷ 銃剣道＝北村義宏 (教士八段)、高柳陽一 (教士八段)、堀口寛之 (教士七段)、大江保則 (教士七段)、丸山育男 (教士七段)、石川治樹 (教士七段)
- ▷ 澁川流柔術＝吉野明嗣 (第十二世師範 免許皆伝)、村井道由 (本目録)、東英章 (附目録)、南谷洋行 (中伝)
- ▷ 初實剣理方一流甲冑抜刀術＝神崎勝 (免許皆伝)、多賀俊郎 (免許)、坂本圭 (目録)、神崎勝馬 (世話代)
- ▷ 二刀神影流鎖鎌術＝島村収 (第六代宗家)、細川隆 (第七代宗家)、小松英正 (中伝)、森本誠 (初伝)
- ▷ 記録＝後閑信弥 (櫛クエスト)

総勢 75 名

● 市内視察 (11月11日)

演武大会翌日、希望者参加の市内視察を行い、弘友副団長をはじめとする団員たちは、シェーンブルン宮

者は演武大会の成功を^{ねむら}勞い合い、柔道の射手矢岬団員が中締めを行った後も、互いの話は尽きなかった。中締め後には、高村団長が会場内の団員のもとを訪れて慰労の言葉をかけながら記念撮影に応じていた。

● 解団式 (11月11日)

夕刻、解団式を市庁舎内レストランで実施した。はじめに、弘友副団長が「あつという間の事業だったが、団員の真剣な取り組みにより、全て大成功に終わった。ワークショッ

殿、ヴェルヴェデーレ宮殿、シュテファン寺院を見学。旧市街では自由行動の時間もあり、視察は充実したものとなった。

夕刻、解団式を市庁舎内レストランで実施した。はじめに、弘友副団長が「あつという間の事業だったが、団員の真剣な取り組みにより、全て大成功に終わった。ワークショッ

で、子供も大人も自分の順番を待つて並んでいる姿が印象的だった。今回の成功をもとに、各団体の相互交流を深めて、武道振興に貢献してほしい」と述べた。

朝食後、ホテルを出発し、ヘルシンキ経由で成田空港へ向かった。13日午前10時過ぎに日本へ到着した団員たちは、安堵に顔を綻^{はら}ばせながら、それぞれの帰路へ着いた。

(文・写真)プロジェクト事務局

● 帰国 (11月12日～13日)

場面も。中締めは志村力団員(少林寺拳法)が務め、一丁締めで本事業を結んだ。

好評発売中

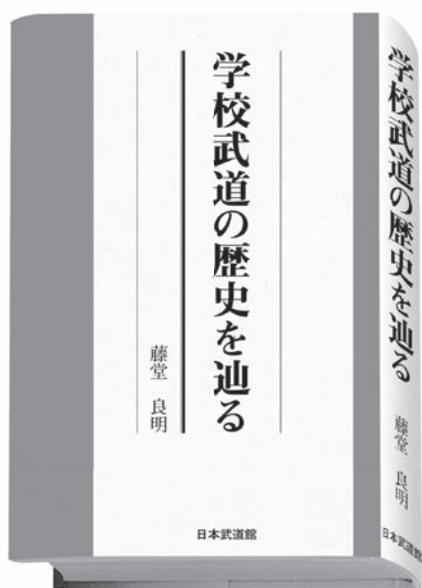
藤堂良明 (とうどう よしあき)
(筑波大学名誉教授) 著

学校武道の歴史を辿る

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明 (とうどう よしあき)

1949年(昭和24)、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究科修士課程修了。筑波大学教授(体育科学系)、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。

現在、筑波大学名誉教授。博士(学術)。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目次

- 第1部 江戸時代の学校武道
 - 第1章 藩学の創設と文武学習
 - 第2章 藩学における教育目標
 - 第3章 藩学における武芸教育
- 第2部 明治時代の学校武道
 - 第4章 武芸の衰退と学校教育制度の確立
 - 第5章 学校武術採用に関する体操伝習所の答申
 - 第6章 山岡鉄舟と嘉納治五郎
 - 第7章 嘉納治五郎の学校柔道普及戦略
 - 第8章 明治期の学校における武術の普及状況
 - 第9章 武術の正課採用への歩み
- 第3部 大正時代の学校武道
 - 第10章 文部省主催武術講習会の目的と内容
 - 第11章 学校体操教授要目の制定と内容
 - 第12章 「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
 - 第13章 大日本武徳会の設立と影響
 - 第14章 学生武道の隆盛
 - 第15章 改正学校体操教授要目の制定と内容
- 第4部 昭和20年以前の学校武道
 - 第16章 精力善用国民体育と学校武道
 - 第17章 柔・剣道が正課必修に
 - 第18章 戦前の学生武道大会の発展
 - 第19章 国民学校体操科の登場
 - 第20章 第二次大戦中の体操科武道
- 第5部 戦後の学校武道
 - 第21章 戦後の学校武道の禁止と復活
 - 第22章 「格技」の誕生
 - 第23章 格技から武道へ
 - 第24章 中学校武道必修化の実現
 - 第25章 これからの学校武道のあり方

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

合気道九段 多田 宏 著

合気道に生きる

四六判・上製・402頁・本体2400円＋税

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。

昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。



多田 宏 (ただひろし)

昭和4年(1929)12月14日生。東京都出身。早稲田大学第一法学部在学中の昭和25年、植芝道場入門、合気道を始める。植芝盛平先生、吉祥丸先生に師事。同年、天風会入会、中村天風先生に師事。同年、一九会道場入会、日野正一先生に師事。昭和27年早稲田大学卒業。合気道の稽古と日本武道の歴史研究を専門とする道に進む。合気道本部師範・防衛庁師範を務め、慶應義塾・学習院・早稲田の各大学合気道会設立に尽力、師範となる。昭和39年渡欧し、欧州各国での合気道普及に尽力。イタリア合気会を創設。現在、合気会本部師範、早稲田大学合気道会名誉師範、東京大学合気道会名誉師範、イタリア合気会主任教授、国際合気道連盟委員など。また、合気道多田塾を主宰。合気道九段。

目次

第一章 生い立ち

- 一 原点
- 二 幼稚園から小学校時代
- 三 第一東京市立中学校

第二章 師との出会い

- 一 松濤 船越義珍先生
- 二 植芝盛平先生・吉祥丸先生
- 三 中村天風先生
- 四 鉄叟日野正一先生・みちゑ先生

第三章 生き方の方針

- 一 植芝道場 先輩の教え
- 二 命の基を訪ねて
- 三 一生の方針を定める

第四章 植芝盛平先生の教えと稽古

- 一 気の錬磨
- 二 合気道の心
- 三 心学の道、心法の道
- 四 稽古と法
- 五 稽古の目的、人の生き方
- 六 「機」について
- 七 錬る
- 八 自然な動き
- 九 場を主宰する

第五章 合気道の普及

- 一 合気道の発展
- 二 「気の流れ」の錬磨
- 三 ヨーロッパの合気道
- 四 合気道の国際的普及
- 五 気の流れと縁

第六章 呼吸法(調気の法)

終章 稽古を顧みる

発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第68回天皇杯 全日本相撲選手権大会

第68回天皇杯全日本相撲選手権大会（主催＝日本相撲連盟）は昨年12月1日、東京・両国の国技館で約3千名の観客が集まり、開催された。大会には過去1年間に開催された各大会での成績に対して与えられるポイントの合計数が多かった社会人・大学生・高校生の68名が出場し、アマチュア横綱の座を目指した。決勝は、谷岡倅志郎（近畿大学）が上手投げでイエールシン（日本大学）を破り、初優勝に輝いた。



谷岡倅志郎（近畿大学）が初優勝

決勝トーナメント1・2・3回戦

大会は予選リーグで各選手3試合を行い、2勝以上の優秀選手40名を決定し、決勝トーナメントが行われた。

母国カザフスタンでは柔道を学んでいたが高校3年生から相撲に移行したイエルシン（日本大学）は、2回戦で山市大悟（拓殖大学）を上手投げで降し、3回戦では2018年の本大会で準優勝の三輪準斗（新潟県）を土俵外へ押し出し、準々決勝へ。



1回戦＝谷岡（上）が鈴木に上手投げを決める

昨年の国体成年の部でベスト8入賞の由留部圭祐（愛媛県）は2回戦で長谷川将臣（青森県）を上手投げで破る。続く3回戦では住木厳太（中央大学）に押し倒して勝利し、準々決勝に進んだ。

全日本大学選抜相撲宇和島大会2位の勝呂歩紀（拓殖大学）は2回戦で昨年の全日本実業団相撲選手権大会優勝の荒木関賢悟（東洋大学職員）を突き落として勝利。3回戦では、同大会3位の吉田圭佑（アイシン精機）を突き出しで降し、準々決勝へ駒を進めた。

昨年の全国学生相撲選手権大会準優勝の谷岡倅志郎（近畿大学）は1回戦で鈴木悦朗（アイシン軽金属）を上手投げで降す。2回戦では昨年の全国学生相撲選手権大会と国体成年の部で制覇し、本大会で3冠を目指していた中村泰輝（日本体育大学）を上手出し投げで破った。続く3回戦も菅野陽太（中央大学）を押し倒して勝利。前回のベスト16を上回って準々決勝へ。

準々決勝

イエルシン ○突き落とし 西川登輝
両者の体格はほぼ互角。先に勝負を仕掛けたのは西川登輝（中央大学）。力強く突つ張り、イエルシンを土俵際まで追い込んだ。しかし、イエルシンは上手く身体を切り返り、バランスを崩した西川を突き落とし、見事、ベスト4へ駒を進めた。



準々決勝＝イエルシン（右）が西川を突き落とす

由留部圭祐 ○押し出し 羽出山将
両者、立ち合いから激しく突つ張り合う。羽出山将（東洋大学）が押し込まれるも土俵際で回り込み、由留部はバランスを崩して倒れ込む。羽出山もほぼ同時に土俵下へ。主審は羽出山を勝ちとしたが、審判団の審議の結果、由留部が勝れるより先に羽出山が土俵外に出たとの判定が下され、由留部が勝利しベスト4進出を決めた。



準々決勝＝由留部（左）が羽出山を押し出す

勝呂歩紀 ○押し出し 五十嵐敦

立ち合いから両者激しくぶちかます。両者、一步も引かない激しい突っ張り合いから、最後は息の上がついた五十嵐敦（盛岡市役所）。そのまま勝呂が五十嵐を押し出し、勝利。勝呂が初の準決勝進出を決めた。

左足を負傷しながらもベスト8まで勝ち上がり、激しい取組後に精魂尽きて立ち上がれない五十嵐。その健闘を称え、会場からは惜しめない拍手が送られた。



準々決勝＝勝呂（手前）が五十嵐を押し出す

谷岡倅志郎 ○上手出し投げ 榎波将史

大学4年生同士の対決。体格は榎波将史（日本大学）が谷岡よりも20kg勝る。勝負は、立ち合いで頭を下げ、勢いよく飛び出した榎波を谷岡は見透かしたように右に変化し、上手出し投げで仕留めた。ここまで冷静な試合を展開してきた谷岡が見事、準決勝に進出した。



準々決勝＝谷岡（左）が榎波を上手出し投げで仕留める

準決勝

イエルシン ○押し出し 由留部圭祐

外国人出身選手としては2016年大会のトゥルボルド以来のベスト4進出となったイエルシンと、本大会で唯一社会人として準決勝まで勝ち上がった由留部の対戦。鋭い立ち合いと同時に両者で突っ込んだイエルシンは、この一発で由留部を土俵下へ押し出して勝利。試合時間わずか1秒で決着をつけたイエルシンが、決勝の舞台に勝ち上がった。



準決勝＝イエルシン（左）が由留部を力強く押し出す



準決勝＝谷岡（左）が勝呂に下手出し投げで勝利

谷岡倅志郎 ○下手出し投げ 勝呂歩紀

全国学生相撲で好成績を収め、学年も互いに4年生の両者。まず、勝呂が力のある突っ張りで攻めるも、谷岡はこれを素早くいなす。勝呂が再び、激しく突っ張るも、谷岡はその攻めをかい潜って右前廻を取り、下手出し投げで勝利。初の決勝進出を決めた。

決勝

谷岡倅志郎 ○上手投げ イエルシン

決勝トーナメントから調子を上げ、ここまで順調な勝ち上がりを見せる谷岡と、本大会初出場ながら、大躍進したイエルシンの対決となった。両者は本大会が初めての対戦となる。

試合は、両者なかなか立ち合いの息が合わず、2回仕切り直しになり、会場も緊張が高まる。3度目の立ち合いで「はっけよい」の合図と同時にイエルシンが谷岡へ力強い押しを繰り出す。谷岡は相手の動きをよく見て何度もイエルシンの押しをいなす。そしてイエルシンの一瞬の隙を見た谷岡は素早く左上手を引き、そのまま上手投げで見事勝利。3年ぶりの学生でのアマチュア横綱の座に輝いた。



谷岡（奥）が上手投げで優勝を決めた

怪我と国体2位の悔しさを乗り越え掴んだ天皇杯

◎優勝Ⅱ谷岡倅志郎参段（近畿大学）
たにおかこうしろう



「学生として出場する相撲大会がこれで最後だったので、優勝できて本当に嬉しいです。今年は左膝と右の太ももの怪我があり、試合も満足に出場できませんでした。

2回戦で当たった中村泰輝選手は、全国学生（インカレ）の決勝戦の時に負けているので、勝たないと優勝できないと思い、意識していました。以前の決勝戦では相手の押しに吞まれて負けてしまったので、今回は押し負けないようにということを意識していました。今日の瀬戸際まで追い込まれましたが、なんとか廻しを取ることが命綱となり、最後まで諦めずに残れたので、それが勝因とな

ったと思います。勝てた時はホッとしました。

イエルシン選手とは初めての対戦でした。自分よりもかなり大きな相手でしたので、飛ばされないように注意しました。相手より早く立つて早く廻しを取ることを意識しました。それが成功し、先に仕掛けられたのが良かったです。

現在はトレーニングとして1日300回ほど腕立て伏せをしています。上半身に負荷をかけ、力をつけるように努力を重ねてきました。トレーニングは高校からずっと続けています。怪我をした時も上半身だけは鍛えるように休まずトレーニングしました。

相撲という種目を子供たちに知ってもらいたい、指導したいという思いが強くなるので、教員を目指しています。教員になってもアマチュア相撲の世界で活躍していきたいです」

第 68 回全日本相撲選手権大会（決勝トーナメント）

	氏名	所属	段位
1	イエルシン	(日本大学)	参
2	山市 大悟	(拓殖大学)	参
3	古川 晴貴	(日本通運)	四
4	西郷 智博	(鳥取県庁)	四
5	三輪 隼斗	(新潟県)	四
6	西川 登輝	(中央大学)	参
7	高橋 修	(長崎県)	四
8	黒川宗一郎	(アイシン軽金属)	四
9	ドライバートル	(日本体育大学)	参
10	長内 孝樹	(近畿大学)	参
11	デルゲルパヤル	(日本体育大学)	参
12	加藤 翔太	(日本大学)	四
13	村山 大洋	(新潟県)	四
14	羽出山 将	(東洋大学)	参
15	中嶋 亮介	(アイシン精機)	四
16	由留部圭祐	(愛媛県)	四
17	長谷川将臣	(青森県)	四
18	住木 厳太	(中央大学)	参
19	山口 怜央	(近畿大学)	参
20	久保 裕	(南部町役場)	四
21	田中 大介	(中央大学)	参
22	中村淳一郎	(アイシン軽金属)	四
23	大桑 元揮	(飛龍高校)	弐
24	沢田日登志	(日本大学)	参
25	五十嵐 敦	(盛岡市役所)	四
26	荒木関賢悟	(東洋大学職員)	四
27	勝呂 歩紀	(拓殖大学)	参
28	吉田 圭佑	(アイシン精機)	四
29	西方 航	(栃木県)	四
30	小林 亮太	(石川県教員)	参
31	榎波 将史	(日本大学)	四
32	神山 達哉	(アイシン精機)	四
33	橋本 侑京	(早稲田大学)	参
34	干場 伸介	(東洋大学)	参
35	黒川宏次朗	(拓殖大学職員)	四
36	菅野 陽太	(中央大学)	参
37	田中 達也	(長崎県)	四
38	中村 泰輝	(日本体育大学)	参
39	谷岡倅志郎	(近畿大学)	参
40	鈴木 悦朗	(アイシン軽金属)	四

優勝・谷岡倅志郎(近畿大学)

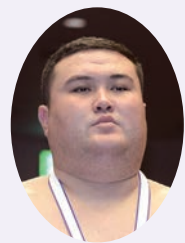
三位
〃
由留部圭祐(愛媛県)
勝呂 歩紀(拓殖大学)

優勝・谷岡倖志郎（近畿大学）

準優勝 イエルシン（日本大学）
三位 由留部圭祐（愛媛県）
勝呂 歩紀（拓殖大学）

○準優勝Ⅱバルタグル・イエルシン

参段（日本大学）



「高校3年生の時に日本に来ました。それまでは母国のカザフスタンで柔道をやっていて、本格的に相撲を始めたのは大学に入学してからです。試合へ頻繁に出場するようになったのも昨年に入ってからでした。」

今日の試合では気持ちを大切に臨みました。一つ一つの試合で負けな
いという気持ちを持ち続けました。

出場を始めた和歌山大会から徐々に調子が上がリ、自分の相撲の形ができていくという感覚がありました。

これらがあつたからこそ本大会で2位になれたのだと思います。

位になれたのだと思います。

得意な形は突っ張りとし左四つからの攻撃ですが、決勝では、突き押しが右四つの試合展開になると思っていました。しかし、谷岡さんのスピードが速く、左の上手がうまく取れなかったのが、今回の敗因だと思います」

令和元年度JOCジュニアオリンピックカップ 第32回全日本小学生相撲優勝大会



小学6年生の部＝
左から児玉、倉持、伊藤、山下



小学6年生の部決勝＝児玉（手前）対倉持



小学5年生の部＝
左から豊田、太田、吉本、小笠原



小学5年生の部決勝＝豊田（左）の寄り倒し



小学4年生以下の部＝
左から中村、椿、金澤、安井



小学4年生以下の部決勝＝
中村（上）の上手投げ

全日本相撲選手権大会の予選と決勝トーナメントの間に、JOCジュニアオリンピックカップ第32回全日本小学生相撲優勝大会が行われた。本大会は、各ブロックの相撲連盟が実施した地区予選大会の結果で出場代表選手を決定。小学6年生、5年生、4年生以下の3部門に各33名、計99名の代表選手が出場し、優勝を争った。

小学6年生の部は、決勝で児玉颯飛（東京都）が倉持裕羽（東京都）を上手出し投げで破り、優勝した。

小学5年生の部では、昨年8月に行われたわんぱく相撲選手権大会で横綱に輝いた豊田倫之亮（鹿児島県）が太田力月（神奈川県）を寄り倒して勝利し、優勝。

小学4年生の部では、昨年8月のわんぱく横綱選手権大会で2位になった中村颯斗（静岡県）が同大会横綱の椿留一（新潟県）を上手投げで降し、雪辱を果たした。

◆小学6年生の部

◎優勝Ⅱ児玉颯飛（東京都）

○準優勝Ⅱ倉持裕羽（東京都）

▽3位Ⅱ伊藤博英（熊本県）

山下正清（鹿児島県）

◆小学5年生の部

◎優勝Ⅱ豊田倫之亮（鹿児島県）

○準優勝Ⅱ太田力月（神奈川県）

▽3位Ⅱ吉本陽平（熊本県）

小笠原広祐（青森県）

◆小学4年生以下の部

◎優勝Ⅱ中村颯斗（静岡県）

○準優勝Ⅱ椿留一（新潟県）

▽3位Ⅱ金澤永和（千葉県）

安井礼也（石川県）

好評発売中

漫画家
別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！



B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は4話を掲載！



多田宏先生



磯山博先生



菅沼守人先生



東北大学学友会合気道部



決勝＝林田智笑（右）は鋭いメンで金岡を攻める

皇后盃第64回全日本なぎなた選手権大会

林田智笑に3年連続の賜盃 (大阪)

皇后盃第64回全日本なぎなた選手権大会（主催Ⅱ全日本なぎなた連盟）は昨年12月1日、山形市総合スポーツセンターで開催された。東北地区での開催は初めてで、全国各地から厳しい予選を勝ち抜いた精鋭54選手が、なぎなた日本一の座を懸けて覇を競った。

決勝は、2連覇中の林田智笑（大阪）と金岡智子（大阪）の同郷対決となった。勝負は延長の末、林田がメンを決めて金岡を降し、3連覇を達成した。3位には田中千景（京都）が入り、第59回大会の優勝以来、5年ぶりの入賞を果たした。

開会式では佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長が挨拶。その後、吉村美栄子山形県知事、佐藤孝弘山形市長が来賓祝辞を述べた。砂川邦子審判長が競技上の注意を、続いて前年優勝の林田智笑が選手宣誓をした。



大会はトーナメント方式で行われ、試合時間5分間の3本勝負。時間内に勝敗がつかない場合は、判定とした（決勝は3分1回の延長あり）。



準決勝①＝林田（右）はスネで先取した後も攻め続けた



準決勝②＝金岡（右）がスネで杉野を攻める



3位決定戦＝田中（左）は切っ先で相手を制し、試合を優位に運んだ



決勝Ⅱ林田（左）が鋭いスネを打つ

準決勝には、2連覇中の林田智笑

（大阪）、5年ぶりの優勝を狙う田中

千景（京都）、昨夏にドイツで開催

された世界選手権大会の団体戦日

本代表の金岡智子（大阪）、過去4

度の優勝経験がある安喰愛（島根）

に2回戦で判定勝ちした杉野圭（三

重）の4名が勝ち上がった。

▽準決勝①

林田智笑 スー 田中千景

3連覇を目指す林田と、ベテランの田中が対戦。足を使って攻める林

田に対し、冷静に相手を見て、打突

の機会を窺う田中。林田は下段の構

えからスネを打ち一本を奪う。その

後も攻め続けた林田が決勝戦に駒を

進め、3連覇に王手をかけた。

▽準決勝②

金岡智子 メー 杉野圭

杉野は序盤から足を使って、金岡

に圧力をかける。近間での駆け引き

が展開されるも膠着状態になる。

試合時間が3分を過ぎたところ

で、杉野が後退する瞬間を逃さず、

金岡がメンを放ち一本を奪う。その

後は金岡が完全に試合をコントロール

し、スネ、メンと攻めの手を緩め

ず、一本勝で決勝進出を決めた。

▽3位決定戦

田中千景 スー 杉野圭

優勝経験のある田中は切っ先で牽

制しながら自分の間合とタイミング

で機を窺う。これにより、杉野は前

に出ることができない。それでも杉

野は八相の構えから側メン、スネと

活路を見出そうとする。

足の怪我の影響で徐々に動きが鈍

くなる田中。杉野は手数を増やし、

連続技で攻め立てる。我慢の展開が

続く田中は、杉野がメンを打つて来

たところを狙いすましたスネで一本

を奪い勝利。ベテラン田中が久々の

入賞を果たした。

▽決勝

林田智笑 メ延ー 金岡智子

金岡は試合開始直後からメンで攻

め込み、試合の主導権を握る。対す

る林田はメン、スネと連続で打ち込

んで、金岡の動きを止めようとする。

開始1分半過ぎ、金岡が遠間から

一気に踏み込んで放ったメンで主審

の旗が上がると、会場に歓声が響い

た。しかし、副審2人は不十分とし

て、旗を上げない。ここから林田が

反撃に出る。林田は間合を詰めなが

ら、鋭いメンとスネで一本を狙うも

決まらない。このまま本戦5分が終

了し、勝負は延長戦へ。

延長に入ると、林田が金岡を徐々

に追い詰めていく。延長戦開始から

1分10秒、中段の構えの林田と、下

段の構えの金岡が同時にメンに飛

ぶ。一瞬早く林田のメンが金岡を捉

えて一本勝。3連覇を達成した。

入賞者インタビュー



優勝
はやしだ ちえみ
林田智笑 (大阪)

3連覇を達成した林田選手は、大会に臨むにあたり、どのような調整をしてきたのか。

「基本に立ち返り、調整をしてきました。しっかりと一本が取れる技を磨いてきました。夏に行われた世界大会では力を出し切れなかったので、今回は気持ちを切り替えて試合に臨みました」

決勝戦では前半、相手にペースを握られ、技が出せない状態が続いた。金岡選手の技に主審の旗が上がる場面もあったが、どんな気持ちだったのか。

「普段の稽古とは違い、試合となると思い切り技が出せずにペースを握られてしまいました。副審が

取り消していたので、気持ちを切り替えて勝負にいきましました。延長に入ってから、もう攻めるしかないという気持ちで出したメンで一本が取れたのでよかったです」

3連覇の記録は、松本登志美、成田登代子、安喰愛について4人目。次は前人未到の4連覇に挑戦することになるが、次の目標を聞くと、林田選手は謙虚に答えた。

「今回の決勝戦は、9割5分以上が金岡選手のペースでした。自分の間合では勝負させてもらえなかったで、今後は納得のいく試合ができるように一試合一試合に集中していきたいです」

次の皇后盃では、自身が納得する試合内容で4連覇を目指す。



準優勝
かなおかさとこ
金岡智子 (大阪)

「相手の連覇は意識していなかったのですが、いつも一緒に練習し、互いに手の内を知り尽くして

いたのでやりにくかったです。怪我をしていたので、たくさん動くことができない分、一本に全てをかけて打っていったのですが、不十分でした。

後半は、守りに入ったことで攻め込まれてしまいました。もともと一本にこだわらなかつたです。自分自身が指導者でもあるので子どもたちに正しいなぎなたを伝えられるようにしたいです」

「足の怪我があり満足のいく稽古ができませんでした。しかし、精神的な部分でしっかり調整してきました。



第3位
たなかちかげ
田中千景 (京都)

今回は、結果より大会に出場して今までやってきた自分のなぎなたを表現できたところがよかったです。今までの大会で一番試合内容が充実していたと思います」

開会式の後に行われた公開演武では、全日本なぎなたの形、直心影流薙刀術、天道流薙刀術が披露された。演武者は次の通り。

▽全日本なぎなたの形

打Ⅱ谷本良子 教士

仕Ⅱ島名きよみ 教士

▽直心影流薙刀術

打太刀Ⅱ荻原晴子

仕太刀Ⅱ阿部妙子

▽天道流薙刀術

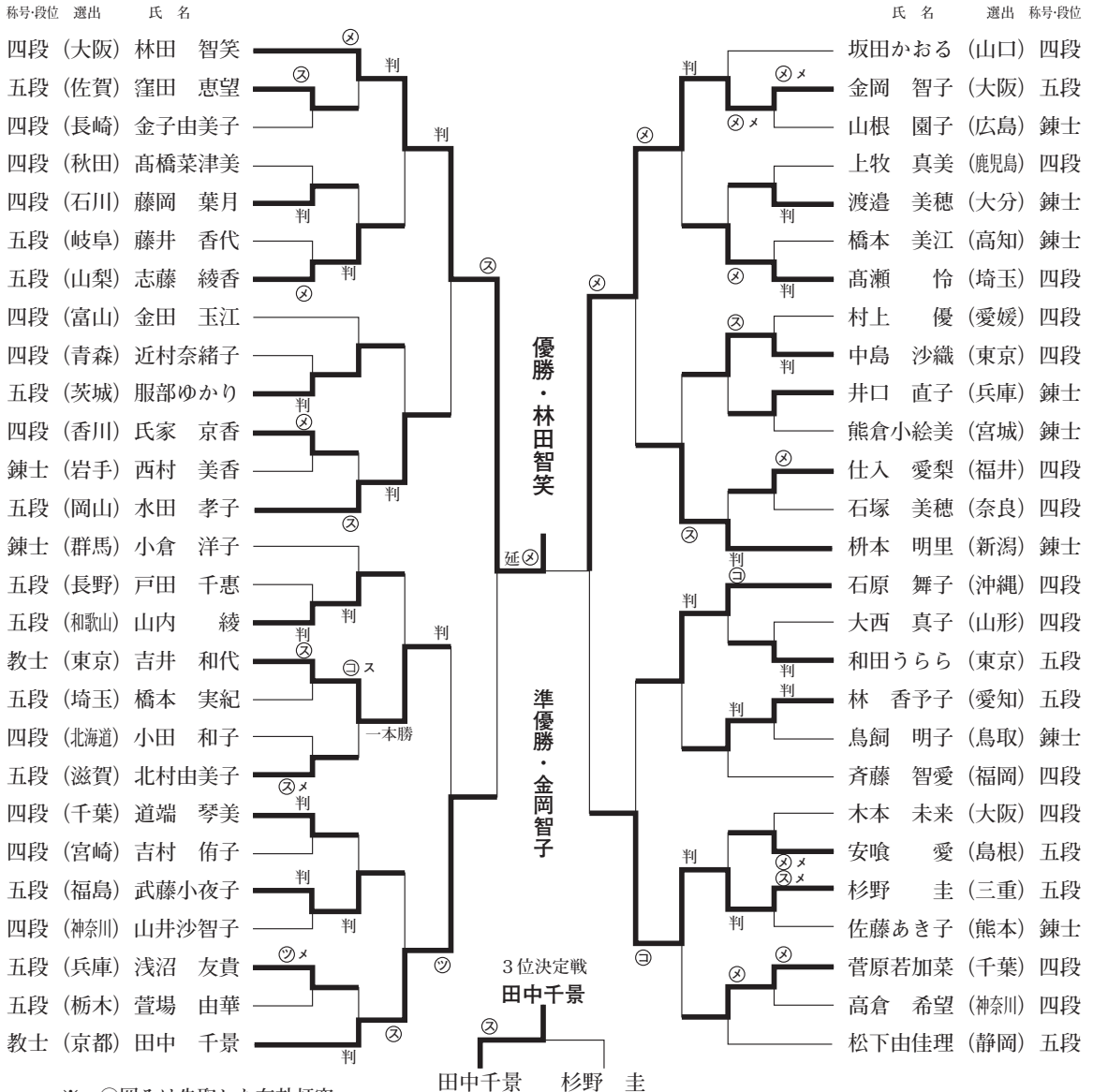
受太刀Ⅱ木村恭子

仕太刀Ⅱ佐藤孝子



全日本なぎなたの形
打=谷本良子 (左)、仕=島名きよみ

皇后盃 第64回全日本なぎなた選手権大会



天道流薙刀術
受太刀=木村恭子 (左)、仕太刀=佐藤孝子



直心影流薙刀術
打太刀=荻原晴子 (左)、仕太刀=阿部妙子



決勝＝増田道仁（左）が延長の末、増田良明からメンで一本を奪い、優勝を決めた

第19回全日本男子なぎなた選手権大会

増田道仁 父降し2連覇 (兵庫)

第19回全日本なぎなた選手権大会（主催）全日本なぎなた連盟は、昨年11月30日、全国から欠場1名を除く選手46名が出場し、山形市総合スポーツセンターで開催された。

決勝戦は昨年と同じ組み合わせの増田良明（46歳・兵庫）と増田道仁（25歳・兵庫）の親子対決となった。試合は息子・道仁のなぎなたが途中で2度破損するアクシデントがあったが、延長の末、父・良明からメンを決め、見事2連覇し3回目の優勝を果たした。

開会式では、大会会長挨拶を森知高全日本なぎなた連盟副会長が、歓迎の言葉を清野伸昭山形県なぎなた連盟会長がそれぞれ述べた。

試合終了後には公開演技として、加藤大貴五段（愛知県）の指揮のもと、出場選手全員で団体基本を披露した。

大会はトーナメント戦で行われ、試合時間4分間の3本勝負。制限時間内に勝敗が決しない場合は判定とした（決勝戦のみ2分1回の延長あり）。



準決勝②＝増田良明（右）が終始攻め続け、試合の主導権を握った



準決勝①＝増田道仁（右）が板垣をメンで攻める

準決勝には、連覇を狙う増田道仁（兵庫）、過去5回の優勝を誇る板垣勇（長崎）、10回目の出場で初の入賞を目指す木村光宏（香川）、2019年世界選手権で道仁を降した増田良明（兵庫）の4名が勝ち残った。

▽準決勝①

増田道仁 判― 板垣 勇

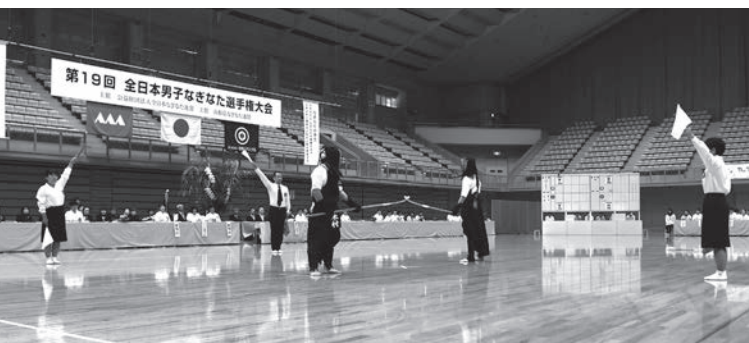
試合序盤は増田が近間からのスネ、メンで攻め込む。試合開始から1分30秒過ぎに増田のスネを受けようとした板垣は払われてなぎなたを落とし、反則を宣告される。

その後は互いに決め手を欠き、勝負は判定に。旗判定の結果、3―0で増田が勝利し、決勝へ勝ち進んだ。

▽準決勝②

増田良明 コ― 木村光宏

試合開始1分過ぎに、増田の一瞬の隙をついたコテが決まり、一本を奪う。後がない木村は近間からのメンを中心に攻勢に出る。しかし、増田は木村の攻めを軽快なフットワークで捌き、試合の主導権を渡さない。そのまま試合終了を迎え、増田が一本勝で決勝に駒を進めた。



3位決定戦＝木村（左）が判定勝で勝利し、自身初の入賞を果たす

▽3位決定戦

木村光宏 判― 板垣 勇

間合の探り合いで静かな立ち上がりを見せる。距離をとる板垣に対し、遠間から飛び込むようなメンとスネで距離を詰めていく木村。開始3分過ぎに木村のメンで主審の旗が上がるも、副審2人には有効打突と認められず一本にはならない。

勝負の行方は旗判定に。その結果2―1で木村が勝利し、自身初の3位入賞を果たす。

▽決勝

増田道仁 メ延― 増田良明

決勝戦は前回大会と同じ顔合わせとなった。道仁は良明に圧力をかけ試合の主導権を握る。しかし、道仁にアクシデントが襲う。刃部が折れてしまい、なぎなたを交換する。これを機に両者は激しい打ち合いに。有効打にならず、互いに一本が奪えないまま勝負は延長戦に突入する。

延長開始から1分過ぎに道仁の刃部が再び破損し、2度目のなぎなた交換を行う。再開直後、両者が同時にメンに飛び込む。一瞬早く道仁のメンが決まり、赤旗が3本上がり一本。道仁が世界選手権大会決勝での借りを返す形で、親子対決を制して2連覇を達成した。



決勝Ⅱメンで攻める増田道仁（右）

入賞者インタビュー



優勝
増田道仁（兵庫）

今大会はどんな気持ちで試合に臨んだのか。

「連覇ということより、世界選手権で海外の選手がのびのびと試合をしていたので、今日は自分もリラックスして試合をすることを意識しました。自分のできることをやろうと思っていました」

前回大会優勝後の取材でも、社会人になってから練習量の確保が難しくなったと話していた増田選手。この1年で重点的に取り組んだ練習について聞いた。

「社会人2年目となり、今まで以上に練習量が確保できませんでした。限られた時間の中で、間合の取り方を中心に質の高い稽古を意

識して取り組みました」

決勝戦は2年連続の親子対決となったが、意識していた部分はあったのか。

「決勝戦は納得のいく試合ではありませんでした。世界選手権の決勝で父に負けていたことで、ライバルに勝つつもりで自分の間合で勝負しました。一本が取れたので練習の成果が出せたと思います」

25歳にして3度目の頂点に立った増田選手。これからのなぎなたとの関わり方について聞いた。

「東京五輪もあるので、なぎなただけでなく、他の武道種目が世界の人の目に触れる機会が増えることを期待します。今後は競技なぎなたのみならず、なぎなたの力強さや美しさなどの魅力を子どもたちに伝えていけたらと思います」



準優勝
増田良明（兵庫）

「順位はよかったのですが、試合内容には満足していません。」

地稽古を中心に試合に近い状態で体を動かすことを意識して練習してきました。46歳を迎えた自分の体と向き合い、世界選手権後の2カ月で6kg減量しましたが、体力面の不安はありませんでした。

側メンを決めたかったのですが、狙いすぎてしまい、タイミングが合わず決められませんでした。

これからは日頃の稽古の内容を出し切って、勝っても負けても自分が納得のいく試合をしたいと思っています」



第3位
木村光宏（香川）

「一つ一つの試合に集中して臨みました。今回は稽古の成果が出せたと思います。大学生からなぎなたを始めて、今年で20年になります。初めて3位になることができましたが、この結果に満足せず、さらに上位を目指していきたいと思っています」



会場となった山形市総合スポーツセンター



公開演技では出場選手全員で団体基本を披露した

県連40周年を祝い誘致

松井亮子大会副委員長に聞く

東北初開催となる皇后盃全日本なぎなた選手権大会の運営について、松井亮子大会副委員長（山形県なぎなた連盟理事長）に話を伺った。松井大会副委員長は大会が無事に終了した安堵感からか、嬉しそうに話してくれた。

「今年度、山形県なぎなた連盟が創設40周年を迎えるにあたり、ぜひ皇后盃を記念大会として受け入れたかったので、誘致しました」

全国規模の大きな大会の開催にあたり、運営面での不安はなかったの

だろうか。

「不安を抱えての大会でしたが、各担当が自覚をもって運営に携わっていただけたことで想像以上にスムーズに運営ができたと思います。」

たくさんの方の失敗や反省点はありましたが、協力いただいた先生方、連盟会員、中学生・高校生係員に感謝しております」

今回の第65回大会も山形県での開催が決まっている。来年に向けての抱負を伺った。

「競技運営が大会のメインとなりますので、今回の反省点を活かして、より良い大会になるよう、県連一丸となって精一杯頑張ります」



山形市立千歳小学校の吹奏楽部が見事なマーチングバンドを披露



花笠踊りで会場を盛り上げた山形大学花笠サークル「四面楚歌」



日本武道館の単行本

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>



空手道 その歴史と技法



小山正辰 和田光二 嘉手苺徹 著

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苺氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苺氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。

四六判・上製・568頁・本体2,400円＋税

幸せについて考えよう

—武道指導者へのメッセージ



元衆議院議員・榎樹舎舎主 小野 晋也 著

混迷の時代・社会において、幸福な人生とは何か。一人ひとりが、そして社会全体が前向きに歩んでいくため、に必要な事は…。先人の言葉や古今東西の幸福論に触れながら、様々な困難を乗り越え、切り開くためのヒントを「武道」の精神に求めた出色の一冊。

四六判・上製・392頁・本体2,400円＋税

学校武道の歴史を辿る



筑波大学名誉教授 藤堂良明 著

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

四六判・上製・354頁・本体2,400円＋税

合気道に生きる



合気道九段 多田 宏 著

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生涯の道と志す。昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一冊。

四六判・上製・402頁・本体2,400円＋税

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の
苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るま
で、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り
返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い
上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、
武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教
員養成所 ◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた
教師◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第
6章財団法人化 ◇第7章体協加盟と国体参
加 ◇第8章生涯続くなぎなたの道



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！ 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。



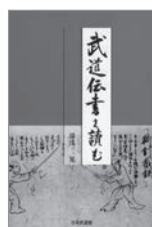
贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

(四六判・上製・366頁)

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長

長濱 文子 著

(四六判・上製・356頁)

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

天皇盃・皇后盃 第47回全日本空手道選手権大会

●個人組手・男子

五明宏人（神奈川）が嬉しい初優勝

●個人組手・女子

齊藤彩夏（山口）が涙の初優勝

●個人形

男子 喜友名諒が8連覇 女子 清水希容が7連覇

天皇盃・皇后盃第47回全日本空手道選手権大会が昨年12月7日・8日に群馬県の高崎アリーナで、全国から選出された139名の選手と94団体が集い、開催された。

約5600名の観衆が詰め掛けた8日は、組手・形競技の個人戦が行われ、男子組手は、五明宏人（神奈川）が喜びの初優勝。女子組手は、齊藤彩夏（山口）が、優勝候補の植草歩（前年度優勝）を退け、涙の初優勝に輝いた。個人形の男子では喜友名諒（前年度優勝）が大会最多タテの8連覇、女子では清水希容（前年度優勝）が7連覇を成し遂げた。





個人組手・男子＝五明(左)が上段蹴りを決める



会場となった高崎アリーナ

これに先立つ7日は、都道府県代表選手による組手の団体戦が行われ、男子は大阪府が48年ぶり3回目、女子は千葉県が3年連続4回目の優勝を飾った。

◇
今大会は、東京オリンピックに伴う日本武道館の増改修工事のため、初の群馬県開催となった。

◀組手個人戦

＜競技方法＞

試合はトーナメント戦により、男女ともに3分間で競われた。8ポイント以上差がつくとその時点で試合は終了となる。また、同点の場合はポイントを先取した方を勝ちとする。準決勝・決勝では、ビデオレビュー（VR）を採用した。



◀男子・準決勝①＝五明（左）が上段蹴りで先制して、試合を優位に進めて勝利



▶男子・準決勝②＝本田（左）が上段突きを決めて逆転勝利

□男子（53名出場）

▽準決勝

優勝経験者が出場しない中、準決勝に勝ち上がったのは、空手1プレミアリーグ2019東京大会67kg級で優勝した五明宏人（ごみょうひろと、神奈川）、17年国体重量級優勝の本田哲也（ほんだてつや）（愛媛）、19年全国学生2位の立花彪貴（たちばなひょうき）（学連）、そして昨年準優勝の安藤大騎（あんどうだいき）（兵庫）。

準決勝第1試合は、五明と立花の対戦。間合をとって機を窺う両者。中盤、五明は中段蹴りの軌道で上段蹴りを繰り出した。VRの結果、これが認められ、五明は3ポイントを先制し、大きくリードする。終盤、試合場隅に追い込まれながらも五明は上段突き、接近戦で上段の裏回し蹴りを決めた。立花も1ポイントを奪うが、7-1の大きな差をつけて五明が初めて決勝に進出した。

第2試合では、本田と安藤が対戦。前半に安藤が左の上段突きで先取すると、負けじと本田も上段突きを決める。互いにポイントを奪えず、先取した安藤のリードで迎えた残り14秒、本田が相手の突きに合わせて上段突きを決め、逆転勝利した。



男子・優勝＝五明宏人（神奈川）

男子・決勝＝五明（右）が上段突きを決めて初優勝

▽決勝

五明と本田、どちらが勝っても初優勝となる。五明はプレミアリーグ東京大会の優勝に続きたいところ。

開始早々、五明が踏み込んで上段突きで先制。本田も五明に合わせた中段突きで1ポイント。さらに五明は中段蹴りを見せながらの突き、中段の軌道から高く伸びた上段蹴りを決めて5―1と試合を大きくリードし、五明が主導権を握った。残り1分余りにも再び上段蹴りを決めて8―1。最後は駄目押しの上段刻み突きを決めて9―1に。試合時間42秒を残し、ポイント差によって五明が勝利を収めた。

余韻冷めやらぬなか、観客席に満面の笑みを見せた五明宏人。有力選手不在といわれた男子個人組手で、嬉しい初優勝を飾った。

今大会では、中段の軌道からの上段蹴りでポイントをものにした。それは、近年磨き上げた突き技の牽制（けんせい）があつてこそ効果を発揮する。昨年9月末のシリーズAサントリーアゴでも優勝し、着実に実力をつけつつある24歳の若武者が、日本の空手道界を牽引する日もそう遠くはない。



◀女子・準決勝①＝植草（左）が中段突きで先取



▶女子・準決勝②＝齊藤（左）が2つ目の上段突きを決めてリードを広げた

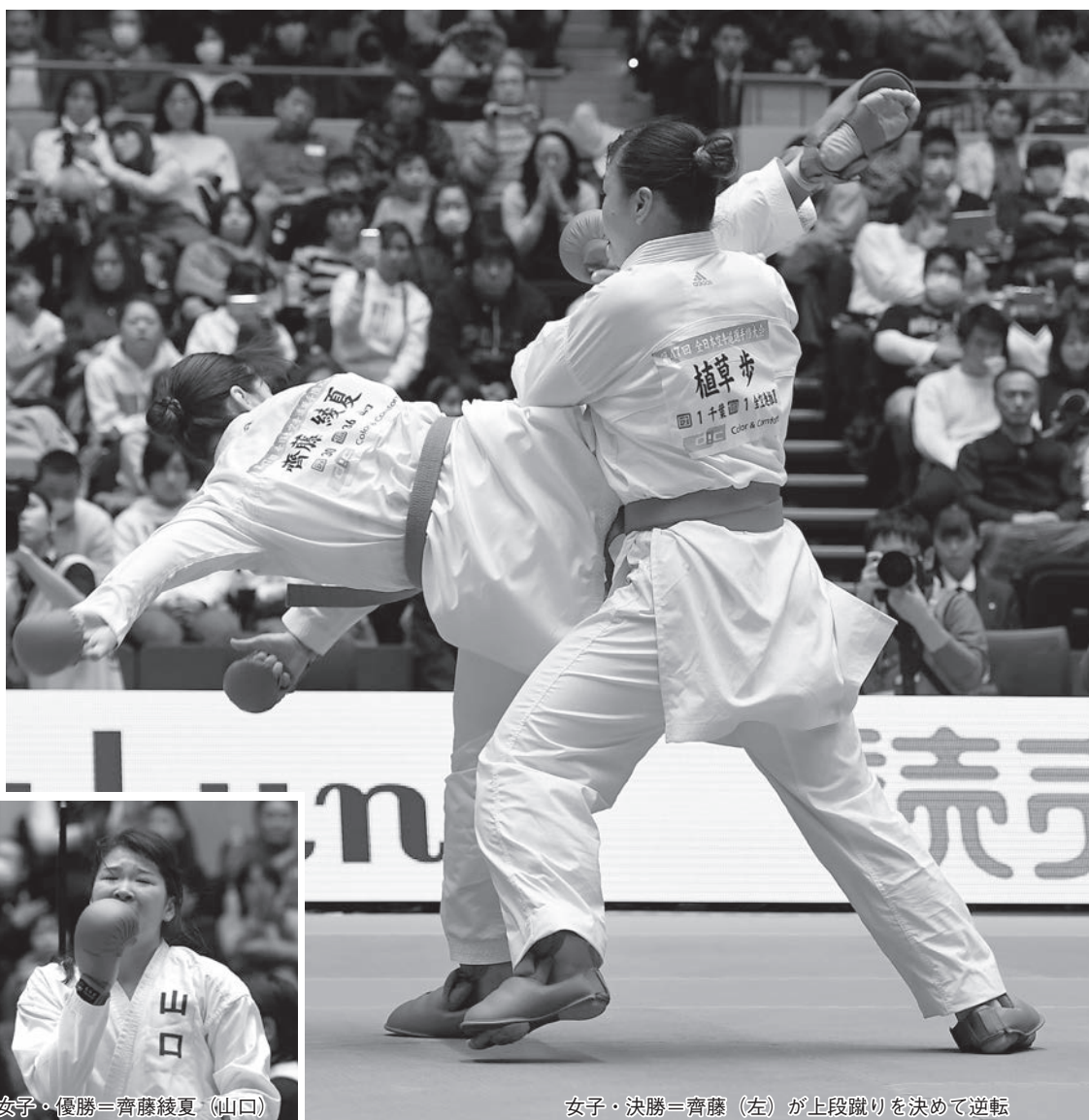
□女子（54名出場）

▽準決勝

準決勝まで勝ち残ったのは、5連覇がかかる植草歩（前年度優勝）、2019年全国日本実業団選手権優勝の齊藤綾夏（山口）、高校3年生の嶋田さらら（千葉）、前年度準優勝の八頭司歩（学連）。

準決勝第1試合で、植草は嶋田と対戦。嶋田は18年の全日本選手権で3位に入賞しており、前日の団体戦では、植草とともに千葉県チームとして3連覇を果たしている。逆体で向き合う両者。相手との間合をはかりながら上段突きを狙っていく植草。植草は40秒過ぎ、一瞬の隙を狙って中段突きで先取した。流れを掴んだ植草がさらに上段突きを決めて試合を優位に進める。残り1分を切り、焦る嶋田の中段突きに反応して植草が上段突きを、残り10秒で再び上段突きを決めて、植草が4-0で勝利。6年連続で決勝に進出した。

第2試合は、齊藤と前年度準優勝の八頭司のカード。過去に両者の対戦はなく、初めての対戦となった。仕掛けに出た齊藤が激しく攻め立てる。中盤には八頭司が下がるどころ



女子・決勝＝斉藤（左）が上段蹴りを決めて逆転



女子・優勝＝斉藤綾夏（山口）

▶組手個人戦

に上段突きを決めた。すかさず八頭司も上段突きでポイント奪う。しかし、すぐに斉藤も上段突きを決めてリードする。さらに斉藤は上段刻み突きを決めて、3―1で勝利を収めた。斉藤が植草との決勝に臨む。

▽決勝

斉藤と植草の対戦。斉藤は植草と同階級の+68kg級。17年の全日本選手権準決勝で、斉藤は植草を終了間際まで追い込んだものの、残り1秒で逆転負けしている。

今回は、すぐに植草が中段突きを繰り出し、斉藤はこれを躲（かわ）すものの、植草は得意の中段突きで先取。試合が植草の流れに傾き始める。しかし中盤、接近戦で植草が油断したところを斉藤が上段裏回し蹴りを決めて、逆転。続けざまに上段突きを重ねた。植草も上段突きで応じてポイントをとるが、斉藤はさらに上段突きを2回決めて6―2とする。植草は終盤に上段突きを2回決めるも時間切れ。

6―4で斉藤が2年前の雪辱を果たして初優勝。温かい拍手に包まれて、感涙にむせる斉藤であった。

◀個人形

＜競技方法＞

審判7名による採点方式。選手は2つのプールに分かれ、予選ラウンドで全日本空手道連盟の指定形を2回演武（指定形の演武は国際大会にはない全日本選手権独自のルール。指定形とは、4大流派の代表的な形を全空連が認定したもの）。

各プールの上位4名がそれぞれランキングラウンド（計2プール）に進出し、得意形を演武する。各プール1位の選手2名で決勝が行われた。また、プール2位の選手は別プールの3位の選手と3位決定戦を行った。

▼男子・優勝＝喜友名（アーナン）



▲男子・準優勝＝新馬場（スーパーリンペイ）

□男子個人形（16名）

ランキングラウンド第1プールでは、大会7連覇中の喜友名諒（前年度優勝）が沖繩空手・劉衛流の形であるバイクーで27点を出して決勝へ進む。第2プールでは、喜友名のライバル新馬場一世（全空連推薦）がパーブルーレンで26・80点を出して決勝へ進んだ。

本大会決勝での両者の対決は実に6度目。オリンピックのプレ大会として昨年9月に日本武道館で開催されたプレミアリーグ東京大会の決勝でも対決。いずれも喜友名が勝利している。最初に新馬場が気迫に満ちたスーパーリンペイを演武。終了すると「決まった！」と観客から大きなかけ声が上がった。続く喜友名はアーナンを演武に選択。ゆつくりと間をとりながら、重厚で力強くもしなやかな形を打ち、喜友名の気合が場内にこたえました。

新馬場は27・28点。対する喜友名はプレミアリーグ東京大会決勝の28・38点に迫る28・32点。今回も喜友名の優勝は揺らぐことなく、阿部良樹の8連覇（1992～99年）の記録に並ぶ過去最多を達成した。



◀女子・優勝＝清水（チャタンヤラ・クーサンクー）



▶女子・準優勝＝岩本（アーナン）

□女子個人形（16名）

ランキングラウンド第1プールでは、清水希容（前年度優勝）がスーパーリンペイで26・82点を出して、大野ひかる（九州地区）を退けて決勝に進出した。

第2プールでは、岩本衣美里（実業団）がパープレンで25・52点を出し、4年ぶりとなる決勝進出を果たした。

4年前に両者は決勝で対決し、清水が勝ちを収めている。今回、沖繩に拠点を持つ岩本は、劉衛流のアーナンで勝負。静まり返った場内で心技体の一つになった迫真の演武を見せた。

清水は大一番で打つ糸東流の形チャタンヤラ・クーサンクーを選択。チャタンヤラは19年プレミリーグ東京の決勝で披露し、世界女王のサンドラ（スペイン）と同じ27・68点を叩き出している。清水は、手数が70を越えるチャタンヤラを繊細ながらも凜とした美しい軌跡を描いて、素早くそして力強く演じ切った。

岩本の26・20点に対し、清水は27・48点を出して、7連覇を成し遂げた。

▼組手団体戦

試合はトーナメント戦により、男子は5人制、女子は3人制で、男女ともに3分間で競われた。

□男子団体戦（47都道府県）

準決勝では、大阪と神奈川が対戦し、勝数は2―2、得点差12―6によつて大阪が決勝に進出。もう一試合は香川と埼玉が対戦し、勝数3―2で香川が勝利した。

大阪と香川の決勝は、先鋒戦で香川・北代涼馬^{きたしろやま}が大阪・小崎友基^{こさきゆうこ}に蹴りで先取。しかし、大阪・小崎が突



男子決勝・中堅戦＝大阪・船橋（右）の突き



女子決勝・中堅戦＝千葉・植草（左）の上段突き

き技を重ねて5―4で逆転勝ちした。次鋒戦は引分け。中堅の大阪・船橋真道^{ふなはままこと}は香川・梶村幹人^{かじむらみこと}に試合終了2秒前に突きを決め、1―0で競り勝った。大阪の王手がかかった副将戦。大阪・中野大輝^{なかのひろき}は試合終了の20秒前に先取。香川・梶村侑哉^{かじむらゆうや}も負けじと取り返したが時間切れ。1―1の同点となったが、先取した中野の勝利。これにより大阪が香川を3―0で破り、48年ぶり3回目の優勝を飾った。

□女子団体戦（47都道府県）

準決勝で、主軸の植草歩を擁する千葉は神奈川と対戦し、2―0の完勝。一方、静岡も2―0で京都を降して決勝に進出した。

決勝の先鋒戦。4連覇がかかる強豪千葉の澤江優月^{さわえゆうづき}は、静岡・岩瀬菜緒^{いわせなほ}に突きで先取。最後は上段蹴りを決め、6―0と圧勝。続く中堅の千葉・植草が静岡・谷沢純香^{やざわすみか}に突きで先取すると、その後もポイントを重ねて8―0の貫禄勝ち。2―0によつて千葉が4回連続、5度目の優勝を収めた。

【組手団体戦結果】

- ▽男子Ⅱ①大阪府、②香川県、③神奈川県、埼玉県
- ▽女子Ⅱ①千葉県、②静岡県、③神奈川県、京都府



■沖縄・首里城にお見舞金

7日に行われた開会式では、全日本空手道連盟の笹川堯会長より、「空手」の発祥の地・沖縄のシンボルである首里城の焼失に対する見舞金の拠出が発表され、沖縄の喜友名諒選手が「沖縄を代表して御礼申し上げます。空手を通して、県民の皆様とともに頑張っていきたいと思えます」と謝辞を述べた。



会場内では、首里城復興支援の寄付金を募るコーナーも設けられた

◎男子個人組手優勝Ⅱ五明^{ごみょうひろと}宏人選手
(神奈川)

▽大会を振り返って

「やつちやいました(笑)。嬉しいです。決勝は恥ずかしい試合はできない、有力選手が出ない中、自分が優勝するしかないと思って臨みました。稽古の成果が出たと思います」

▽五輪代表選考レースについて

「日本の選考基準によって僕は1月から試合に出られずポイントを上げることができません……。最近調子を上げてきてこれからという時に出場できないので、もどかしさと悔しさがあります」

▽この1年を振り返って

「1年間海外を飛び回って沢山の試合に出ていろいろなことが経験できました。それがこの大会での優勝に



中曽根弘文日本武道館理事・参議院議員より日本武道館賞を受ける五明選手

繋がったのだと思います。今後の試合に繋げていこうと思います」

◎女子個人組手優勝Ⅱ齊藤綾夏^{さいとうあやか}選手
(山口)

▽決勝について

「(植草) 歩先輩には、2年前の全日本選手権準決勝で、残り2秒で逆転負けをしましたので、下がる組手でなく、最後まで攻めていこうと思って戦いました」

▽決勝での上段蹴りについて

「上段蹴りは狙っていたというより身体が反応しました。決めた時は足に感触があり、入ったことが分かりました。上段蹴りのお手本は近畿大学で一緒に練習している西村拳先輩^{にしむらけん}です。まだまだ及びませんが、練習の成果は出せたと思います」

▽今大会を振り返って

「今日は、突きが決まらず、調子が良くなく、気負わずに自分が出せる精一杯の力を出していこうと決勝の舞台に立って決意しました。」

ずっと歩先輩を追ってきました。なかなか越えることができませんでしたが、この舞台で越えられたと思います。これからも頑張りたいです」

◎男子個人形優勝Ⅱ喜友名涼^{きゆなりりょう}選手
(前年度優勝)

▽大会8連覇について

「全日本選手権で8連覇を達成して、気づいたら偉大な阿部良樹選手と並ぶことができました。これから自分がその偉大な記録を超えていけたらと思います」

▽決勝演武について

「決勝で打ったアーナンはシンプルな強さ、スピードが特徴です。佐久本^{さくもと}剛男先生との稽古どおりに、劉衛流の持ち味を出しながら一つ一つの動きに魂を込めて打ちました。特に今回はシンプルに技の強さを見せることができました」

▽この1年を振り返って

「国際大会も含めて全て優勝し、無敗で締めくくることができました。多くの大会がありました、うまく自己管理をして各大会には良い状態で臨めたと思います」

▽これからについて

「基礎・基本を大切にして気を抜かずに稽古に励んで、より正確に速く、誰にも真似できないような形を目指していきたいと思います。オリンピックでは優勝します!」

◎女子個人形優勝Ⅱ清水希容^{しみずきよう}選手
(前年度優勝)

▽大会を振り返って

「7連覇できたことは本当に周りの皆さんのお陰だなど痛感しております。」

1週間前のプレミアリーグマドリッドからすぐの大会でしたので、体力の面で非常に辛かったです」

▽1年を振り返って

「チャタンヤラ・クーサンクーで勝ちきれずに苦しみました。自分の得意形で、自分の流派『糸東流』の最高峰の形でもあります。だからチャタンでベストの演武を行って優勝したいという気持ちがありますが、サンドラ選手(スペイン)に負けてしまふこともあり、自分の実力がまだまだだと痛感した1年となりました。今日の演武だったらサンドラに負けていると思います」

▽これからについて

「基礎を大切にして突きや蹴り、シンプルな動作を稽古して、総合的なベースアップを図り、力強く、印象に残るような演武を作っていきたいです。オリンピックでは必ず金メダルを取りたいと思います」

組手個人戦 男子

鈴木 晃成 (福 島)		0		優勝		3	江藤 純哉 (福 岡)
三橋 龍斗 (徳 島)	0	4			3(先)	1	藤原 丈士 (茨 城)
宮崎 佑介 (実業団)	5				0	0	石塚 錬 (秋 田)
岡村 将広 (鳥 取)	1		5		0	0	鹿村 良介 (岐 阜)
蜜口 光太 (滋 賀)	4	2	3		6	1	崎山 優成 (香 川)
長沼 俊樹 (東 京)	8	7			4	0	飯野 慎也 (山 形)
中澤 弘輝 (長 野)	0				0	1	莊司三史郎 (高 知)
五明 宏人 (神奈川)			5		0	0	船橋 真道 (大 阪)
藤原 晃也 (愛 知)		11	7		1	1	大浦 靖矢 (奈 良)
西山 拓也 (高体連)	3	3			0	5	本田 哲也 (愛 媛)
中野 大輝 (大 阪)	2		5		1	0	鈴木 舜士 (千 葉)
山口 将吾 (長 崎)	6		0		0	8	中畑 憧 (青 森)
井本 匠 (和歌山)	2	1(先)		9 1	5	0	芝本 航矢 (東 京)
齊藤 生人 (山 口)	1			7	1		中野壮一郎 (学 連)
市本 寛 (岡 山)		40		1	1		中村 良太 (山 梨)
才保佑一朗 (鹿児島)	0	4-5(判)				1	比嘉 弘輝 (沖 縄)
矢菅 海斗 (栃 木)	4					2	嶋田 力斗 (埼 玉)
立花 彪貴 (学 連)	0(KK)	3				2	山下 僚也 (三 重)
池田 蓮 (石 川)	8	6				3	新井 蓮 (広 島)
滝川 悟史 (北海道)	5	0				1	新名 佑悟 (宮 崎)
小川 竜輝 (新 潟)	0		2		0(KK)	1	釣 義稀 (富 山)
川島 賢人 (宮 城)	2		0		8	0	片山 由牙 (島 根)
吉岡 大樹 (群 馬)	5	6				3	横井 仁勇 (静 岡)
平田 京 (福 井)	2	3				0(KK)	坂本 拓功 (岩 手)
杉安 孝允 (大 分)	8	4				8	正木 綾 (佐 賀)
武田 風人 (京 都)	0	1				3	安藤 大騎 (兵 庫)
飯村吏毅哉 (熊 本)	4	8				4	
	5						

先 = 先取ポイント
判 = 旗判定
S = 失格
K K = 棄権

組手個人戦 女子

先 = 先取ポイント
判 = 旗判定
S = 失格
K K = 棄権

個人形 男子

▽予選ラウンド2回目POOL2										▽予選ラウンド1回目POOL1									
新馬場一世	菊地凌之輔	堀庭裕平	杉野拓海	船本裕哉	舟田葵	西原啓太	木田郁也	喜友名諒	本一将	西山走	本一将	金城新	在木幸司	年代海里	大島虎太郎	栗原秀元	喜友名諒	西山走	喜友名諒
(全空連推薦)	(全空連推薦)	(近畿地区)	(北信越地区)	(学連)	(高体連)	(四国地区)	(北海道地区)	(前年度優勝)	(実業団)	(九州地区)	(実業団)	(全空連推薦)	(東北地区)	(東海地区)	(中国地区)	(関東地区)	(前年度優勝)	(九州地区)	(前年度優勝)
クルルンファ	クルルンファ	クルルンファ	エンピ	エンピ	エンピ	エンピ	ニールパイポ	クルルンファ	エンピ	セーパイ	セーパイ	セーパイ	カンクウダイ	セイエンチン	セイエンチン	カンクウダイ	セーパイ	セーパイ	セーパイ
24点	92点	58点	23点	22点	21点	19点	8位	26点	10点	60点	25点	23点	24点	23点	21点	21点	60点	25点	26点
1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	8位	1位	2位	3位
★★★★								★★★★											

個人形 女子

▽予選ラウンド2回目POOL2										▽予選ラウンド1回目POOL1									
岩本衣美里	清水那月	尾野真歩	遠藤千夏	平紗枝	大内美里	紺屋沙也	平林沙織	大野ひかる	清水希容	石橋咲織	田中美佐稀	宇海衣花	齋藤沙希	坂本杏樹	岩本衣美里	清水那月	尾野真歩	遠藤千夏	平紗枝
(実業団)	(東海地区)	(全空連推薦)	(全空連推薦)	(中国地区)	(高体連)	(四国地区)	(北信越地区)	(九州地区)	(前年度優勝)	(全空連推薦)	(東海地区)	(学連)	(東北地区)	(北海道地区)	(実業団)	(東海地区)	(全空連推薦)	(全空連推薦)	(中国地区)
クルルンファ	クルルンファ	ニールパイポ	エンピ	エンピ	ニールパイポ	ニールパイポ	ニールパイポ	クルルンファ	ニールパイポ	エンピ	クルルンファ	ニールパイポ	クルルンファ	ニールパイポ	セーパイ	セーパイ	セーパイ	セーパイ	セーパイ
24点	72点	48点	37点	17点	19点	81点	8位	25点	40点	74点	24点	23点	23点	21点	56点	28点	08点	14点	00点
1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	1位	2位	3位	4位
★★★★								★★★★											

東京2020オリンピック空手開催概要

▽競技種目は8種目

・8月6日(木) Ⅱ女子形

女子組手 -50 kg級

男子組手 -67 kg級

・8月7日(金) Ⅱ男子形

女子組手 -61 kg級

男子組手 -75 kg級

・8月8日(土) Ⅱ男子組手 +75 kg超級

女子組手 +61 kg超級

▽各種目10名、1カ国1名のみ

・形は16歳以上、組手は18歳以上が条件

・1種目に1つの国から出られるのは1名のみ

・各種目10名、8種目計80名がオリンピックに出場できる

▽2020年4月6日、出場日本選手が内定

日本は開催枠があり、全8種目に出場できる。日本代表には、4月6日のオリンピック・スタンディング(オリンピック出場権専用ランキング)で日本人最上位の選手が内定する。オリンピック・スタンディングは国際大会での成績をポイント化して算出される。全日本空手道連盟では、各階級上位2名を「集中強化指定選手」として、1月から4月の内定決定まで各国際大会への計画的な参戦を決定。指定選手は、対象大会で勝利を重ねる必要がある。

▽オリンピック・スタンディング対象大会(1月以降の日本人参加大会のみ明記)

・プレミアリーグ(1月Ⅱパリ、2月Ⅱザルツブルク、3月Ⅱラバト)

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(さんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

金城 裕

日本武道館

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出会い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

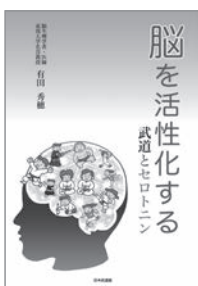
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著



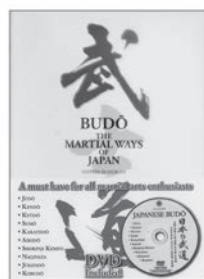
人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊『武道』記者

田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)



女子 78kg超級決勝＝素根（左）が大内刈で優勝を決めた

柔道 *JUDO*
グランドスラム *GRAND SLAM*
大阪 2019 *OSAKA 2019*

女子78kg超級

素根輝（環太平洋大）が優勝し

東京五輪日本代表に内定



柔道グラウンドスラム大阪2019が、昨年11月22日〜24日に大阪府大阪市の丸善インテックアリーナ大阪（大阪市中央体育館）で開催された。昨年の世界選手権東京大会女子78kg超級で優勝した素根輝（そねあきひろ環太平洋大）が順調に勝ち進み、決勝では、世界選手権決勝でも顔を合わせたオルテイス（キューバ）を降して優勝を果たした。

全日本柔道連盟は大会終了後に強化委員会を開き、全会一致で素根が東京五輪日本代表に見事内定した。全柔連は昨年、2020東京五輪の日本代表選考方法について「世界選手権東京大会優勝者が、グラウンドスラム大阪を制し、大会終了後の強化委員会で出席者の3分の2以上の賛成で代表入りが内定」と発表し、日本選手は大会優勝とともに東京五輪出場をかけて、熱戦を繰り広げた。

女子78kg超級



準決勝＝素根（左）が富田を攻める



2回戦＝素根（上）が体落で一本勝



3回戦＝素根（上）が横四方固で合技一本勝を収める



決勝＝素根（左）対オルティス

素根輝（環太平洋大）は初戦から順調に勝ち進み、準決勝で富田若春（コマツ）と対戦。富田に3つ目の指導が入り、素根が決勝に駒を進める。もう一方からは昨年の世界選手権と同様、オルティス（キューバ）が決勝に進出。素根が日本代表の座をかけて、決勝に臨む。

素根が優勝し代表の座を勝ち取るのか、会場中の注目が集まる決勝戦。互いに決め手に欠け、試合はゴールデンスコア（以下、GS）に突入した。GS開始1分40秒過ぎ、素根が釣手、引手ともしっかり掴んで有利な形となる。素根はオルティスに圧をかけながら、前に進んでいく。その瞬間、素根は大内刈を繰り出し、オルティスを浴びせ倒して技有。世界選手権に続いて、今大会でも優勝を果たした素根に、会場から万雷の拍手が送られた。2018年世界選手権優勝の朝比奈沙羅（パーク24）は3位に終わった。

大会終了後、強化委員会が開催され、全会一致で素根が東京五輪日本代表に内定した。

目標だった東京五輪出場に安堵の笑顔 憧れの檜舞台では金を狙う

◎女子78kg超級優勝Ⅱ素根輝選手（環太平洋大）
そねあきら

大会終了後に開かれた強化委員会で素根選手の東京五輪出場が内定した直後、記者会見が行われた。素根選手は満面の笑みで、多くの記者の質問に答えた。

東京五輪への出場が決まったのは数分前。その知らせを聞いた感想を語った。

「優勝はできましたが、五輪出場が決まるまでは落ち着きませんでした。知らせを聞いた時はホッとしました」



素根輝
（そね・あきら）

柔道三段。福岡県出身。福岡県久留米市立南筑高校を卒業し、現在、環太平洋大学1年生。
主な戦績：世界柔道選手権東京大会優勝（2019）、ワールドマスターズ広州優勝（2018）、全日本女子柔道選手権優勝2回（2018、2019）、全日本選抜体重別選手権大会優勝3回（2017、2018、2019）

世界選手権に続き、決勝ではオルティス選手と対戦。その熱戦を振り返った。

「オルティス選手は非常に強い選手です。ですので、まずは自分の流れで試合できるように、先に攻めることを心掛けました。最後は投げることでできて良かったです」

東京五輪の出場がかかった今大会にどのような気持ちで臨んだのか。「普段の稽古では、この大会で優勝して、東京五輪出場を目標に取り組んでいました。しかし、今日は東京

五輪を意識しすぎず、一つの大会で優勝する気持ちで、挑戦者として戦いました」

素根選手は、近年こそ国内外で実績を積んでいるが、それまでは朝比奈沙羅選手（パーク24）がこの階級を牽引していた。2018年の世界選手権も日本代表の座を朝比奈選手に譲り、そのまま朝比奈選手は世界選手権を制している。

「18年の世界選手権の日本代表に選ばれず、非常に悔しい思いをしました。世界選手権に出られなかった悔しさが自分を強くしてくれたと思います。そして、朝比奈さんをずっと追いかけてきました。朝比奈さんを倒さないと、東京五輪の出場は絶対はないと思っていました。ここまで来られたのも、朝比奈さんのおかげです」

東京五輪に向けては「技術的にも、体力的にも強化が必要。足りない部分だらけ」と語った素根選手。そして東京五輪での目標を聞かれると、笑顔で「金メダル」と一言。東京五輪出場を決めた19歳は、檜舞台での優勝を新たな目標に定め、さらに突き進む。

○3位Ⅱ朝比奈沙羅選手（パーク24）
あさひなさら



「怪我で2週間くらい練習できなかったので、それを考えるとよくやっ

たと思います。しかし、金メダルでなければ合格点はあげられません。これで引退ではありません。まだまだやるつもりです。練習の1秒1秒が、自分の最後になると思って大切に生きていきたいです。

（将来は医者を目指し、獨協医科大学医学部医学科に合格したことについて）頑張れるものがあることは素晴らしいことだと思います。私にとって、愛せるものが勉強と柔道、2つあったということです。自分の姿を見て、こういう風になりたい、勉強も柔道も頑張ろうと思ってももらえる人がいたら幸せです」



男子

▽60kg級

決勝には、2017年、18年に世界選手権で2連覇し、リオ五輪で銅メダルとなった高藤直寿（パーク24）と、昨年の世界選手権3位決定戦で高藤を降した永山竜樹（了徳寺大学職）が進出。

決勝戦は、本戦で勝負は決まらず、GSにもつれ込む。高藤はGSに入って2つ目の指導を受ける。GS開始1分42秒、追い詰められた高藤は、永山が横に移動した瞬間に小内刈で浴びせ倒し、技有で勝利。高

藤が世界選手権での雪辱を果たし、東京五輪に向けて大きく前進した。

◎優勝Ⅱ高藤直寿選手（パーク24）



60kg級決勝＝高藤（奥）対永山

▽66kg級

昨年の世界選手権の準決勝では、丸山城志郎（ミキハウス）と阿部一

二三（日本体育大）が対決。試合は丸山が勝利し、勢いそのままに金メダルを勝ち取った。丸山が今大会でも優勝した場合、日本代表に内定する可能性は高い。代表内定を決めた丸山と、丸山の内定を阻止したい阿部が、決勝で再び相見えた。

本戦の4分間は両者とも一步も譲らず、GSに突入。阿部はGSに入っても勢いは衰えず、強気で攻め立てる。一方の丸山は息を切らしながら阿部の猛攻を何とか凌ぐ。GS開始3分27秒、組み合うと丸山は得意の内股に出る。しかし、阿部は内股が来ることを読んでいたのか、体勢を崩さずに支釣込足で合わせ、技有を奪って勝利。丸山との直接対決は3連敗中だった阿部が踏ん張り、東京五輪出場に望みを繋いだ。

「今回は、泥臭くても、結果が全てだと思って戦いました。どの大会で優勝しても、リオ五輪での敗戦が心にずっとあるので、まずは永山選手に勝ち続けて代表となり、東京五輪で絶対、金メダルを取りたいですね。昨年の世界選手権の後、息子に『パパは世界チャンピオン？』と聞かれて、『もう違うんだよ』と答えることがとても辛かったです。東京五輪で優勝して、パパはオリンピックチャンピオンだと、胸を張って答えられるように頑張ります」

◎優勝Ⅱ阿部一二三選手（日本体育大）



「丸山選手にやられっぱなしではないけないと思っていました。この1年

66kg級決勝＝阿部（右）が支釣込足で優勝を決める



間、悔しい思いをしてきたのですが、今回、しっかり勝ち切れた姿を皆さんに見てもらえたことは嬉しいです。今まで積み上げてきたものはそう簡単に崩させません。さらに積み上げていきたいです。これから丸山選手とは東京五輪出場をかけて戦っていくことになりますが、全て勝って、まずは東京五輪の出場を決めたいです。そして、目標である東京五輪で金メダルが取れるように頑張ります」

好評発売中

小笠原 清忠

(弓馬術礼法小笠原教場)
(三十一世宗家) 著

武道の礼法

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が直々に指南する、武道関係者必読の一書。



四六判・上製・278頁

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp>



73kg級決勝＝海老沼（上）が横四方固で一本勝

▽73 kg級

昨年の世界選手権で優勝した大野将平（旭化成）は、怪我のため欠場となった。大野が不在の中、決勝戦は、昨年準優勝の海老沼匡（29歳・パーク24）と、橋本壮市（28歳・パーク24）による、同じ会社の先輩・後輩対決となった。

決勝戦はGSに入り、積極的に足を使う両者に疲れが見え始める。GS開始4分30秒過ぎ、前に圧をかける海老沼に対して、橋本は隅返を狙う。海老沼は堪え、潰れた橋本をすかさず横四方固で抑え込み、一本勝。海老沼が試合時間9分を超える熱戦を制し、先輩としての意地を見せた。

◎優勝Ⅱ海老沼匡選手（パーク24）



「今日は我慢できたことが優勝に繋がったと思います。橋本選手は僕にとっては特別な存在で、パーク24に入社した時から僕を慕ってくれました。そんな橋本選手と決勝で戦えて良かったです。大野選手や橋本選手と試合をして負けても、周りからは『良い試合だったね』と言ってもらえますが、そのような言葉はもう聞き飽きたので、しっかりと勝ち切れる選手になりたいです」

▽81 kg級

決勝には、リオ五輪銅メダリストで選抜体重別選手権優勝の永瀬貴規（旭化成）と、昨年の世界選手権に出場した藤原崇太郎（日本体育大）が勝ち進んだ。永瀬は2017年の世界選手権で右膝の靭帯を断裂し、一昨年の夏に実戦復帰している。

試合は右組の永瀬と左組の藤原のケンカ四つ。互いに引手を取れず、技を出せない。両者とも指導2まで重ね、勝負はGSにもつれる。永瀬は支釣込足など果敢に技を繰り出し、徐々に藤原を追い詰めていく。GS開始2分16秒、藤原に3つ目の指導が入って試合終了。永瀬が東京五輪出場を大きく引き寄せた。



81kg級決勝＝永瀬（右）が藤原を攻める



100kg級決勝＝羽賀（左）が得意の内股で優勝

◎優勝Ⅱ永瀬貴規選手（旭化成）



「この大会は東京五輪に向けて重要な大会ですので、何としても藤原選手や海外選手に食らいつつこうと思って臨みました。怪我からの復帰直後は目の前の相手に精一杯で、周りが見えていませんでした。最近、試合を重ねるごとに少しずつ落ち着いてきて、それが結果に繋がっていると思います」

▽90kg級

リオ五輪金メダルのベイカー・茉秋（日本中央競馬会）は3回戦で敗退。村尾三四郎（東海大）は7位、長澤憲大（パーク24）は5位と奮わず。この階級では、向翔一郎（ALSOK）の3位が日本選手最高成績となった。

決勝は、ゲビニアシビリ（ジョージア）とボボノフ（ウズベキスタン）が戦い、ゲビニアシビリが優勝した。

▽100kg級

リオ五輪銅メダルで、昨年の講道館杯では8年ぶりの優勝を果たした

羽賀龍之介（旭化成）が決勝に進出した。相手は準決勝でウルフ・アロン（丁徳寺大学職）を破ったリオ五輪銀メダルのガシモフ（アゼルバイジャン）。

序盤から、羽賀が釣手、引手ともにしつかり掴んで、有利な形で試合を進める。試合開始2分39秒、羽賀は豪快に内股を繰り出し、技有を奪う。その後も羽賀は、ガシモフの猛追を冷静にいなして優勝。

この階級は、昨年の世界選手権銅メダルのウルフや、昨年のグラナドスラム2大会を制した飯田健太郎（国士舘大）などが名を連ね、代表

争いは混戦模様。優勝した羽賀は、今大会で名乗りを挙げた。

◎優勝Ⅱ羽賀龍之介選手（旭化成）



「今日は初戦から、得意の内股で勝負しました。内股を返されても後悔はありませんし、得意技を出さないと柔道はつまらないので、思い切った勝負にいくと思いました。飯田選手やウルフ選手にプレッシャーを与えられる存在になれるよう、これからは常に最後の試合だと覚悟を持って、戦っていきます」

▽100kg超級

昨年の世界選手権で銀メダルの原沢久喜（百五銀行）は、怪我のため今大会は欠場。繰上り選手として出場した太田彪雅（東海大）が準決勝で熊代佑輔（ALSOK）に勝利し、決勝に進出。決勝はタソエフ（ロシア）に払巻込で技有を奪われ、敗退。惜しくも準優勝となった。

女子

▽48kg級

一昨年優勝した渡名喜風南（パーク24）は、準決勝で近藤亜美（三井住友海上）を降して決勝に勝ち上がる。

決勝戦、渡名喜はフイゲロア（スペイン）が潰れたところに、積極的に寝技を狙う。中盤、渡名喜はフイゲロアが体勢を崩したところを、しぶとく肩固に持ち込み、技有で先制。その後も渡名喜は攻め続け、終盤に小内刈で技有を追加し、合技一本勝を取る。渡名喜は2連覇を果たし、東京五輪に向けて弾みをつけた。

◎優勝Ⅱ渡名喜風南選手（パーク24）



「優勝できたのは嬉しいのですが、初戦から自分の柔道ができて、もっと良い内容で試合をしたかったです。練習では組手からの投技に重点を置いていたのですが、その部分を出せませんでした。多くの選手が私の柔道を研究していると思います。誰が相手でも、安定して勝ち続けていきたいです」

▽52kg級

昨年の世界選手権で優勝し、東京五輪出場を視野に入れる阿部詩（日本体育大）は、決勝まで勝ち進む。決勝の相手は、一昨年の世界選手権で銅メダルのブシヤール（フランス）。

決勝は、阿部が自分の形の組手をつくれないうまま、強引に技を出す展開が続く。GS開始3分40秒、ブシヤールは低く潜って阿部の懐に飛び

込むと、そのまま肩車で技有を奪い、試合終了。阿部はまさかの敗退となり、東京五輪出場内定を逃した。

▽57kg級

一昨年準優勝の玉置桃（三井住友海上）は、準決勝で芳田司（コマツ）を降して決勝に駒を進めた。決勝は、舟久保遥香（三井住友海上）を破った連珍玲（台湾）との顔合せ。

決勝は序盤から激しい組手争いが続く。中盤、玉置が連を場外際まで追い詰め、体落で技有を奪って先制する。すかさず玉置は、倒れた連を崩上四方固でがっちり抑え込む。そのまま技有となり、合技一本勝で初のグランドスラム優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ玉置桃選手（三井住友海上）



「今日は、先にポイントを取られても冷静になって、諦めずに戦えたことが良かったと思います。決勝では中盤に良い形で一本背負投に入るこ



57kg級決勝＝玉置（上）が体落で技有を奪う

とができ、これはいけると思いました。今回優勝しないと、お先真っ暗だと自分にプレッシャーをかけて挑みました。昨年の世界選手権では、良い経験もできましたが、悔しい思いもしたので、それをバネにして戦いました」

▽63kg級

一昨年優勝者の土井雅子（JR東日本）は、準決勝で田代未来（コマツ）を巴投で降し、決勝に勝ち進む。もう一方からは、幸田奈々（帝京科学大）が勝ち上がる。

中盤、土井は幸田の奥襟を掴んで



48kg級決勝＝渡名喜（上）が小内刈で合技一本勝

◎優勝Ⅱ土井雅子選手（JR東日本）



63kg級決勝＝
土井（右）が幸田を返して横四方固に移る

▽
70
kg
級

昨年の選抜体重別選手権で優勝した大野陽子（コマツ）が決勝進出。

相手は、3回戦で新井千鶴（三井住友海上）に勝利したポリング（オランダ）。

終盤に大野は小外刈を繰り出す。技有の判定となるが、ビデオ検証の結果、取り消しとなり、試合再開。

大野は気持ちを切り替え、GSに入ってからもう前に攻めていく。GS開始1分過ぎ、大野は、ポリングが投げ損じて潰れたところで、すかさず送襟紋に移る。それに対し、ポリングは堪らず参った。大野が攻め続け、頂点に立った。

◎優勝おののようこ 大野陽子選手（コマツ）



「技有の宣告があり、一瞬ホツとしました、取り消しとなったため、

70kg級決勝＝大野（上）が送襟絞を仕掛ける

すぐに気持ちを切り替えました。ボリング選手は力も強く、技も多彩なので、相手に合わせないように、先に組んで圧をかけることを意識しました。講道館杯は1回戦で負けたにもかわらず、選んでいただき、このチャンスを活かすしかないと思つて戦いました。東京五輪までは残り少ないので、出場する大会では一試合一試合全力で戦つて、自分らしさを出していきたいです」

▽
78
kg
級

決勝は、昨年7月のグランプリ・ザグレブで優勝した梅木真美（AL SOK）と、昨年の世界選手権銀メダルのはまだしょうり濱田尚里（自衛隊体育学校）

マンガ・武道の偉人たち

B5判・302頁・本体 1,000 円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、
双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、
園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鵜沢尚信(銃剣道)

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp インターネットでのご注文は「武道館単行本」と検索



78kg級決勝＝梅木（左）対濱田

「2020年に繋げるためにはここでの優勝が絶対条件なので、結果を



◎優勝Ⅱ梅木真美選手(ALSOK)

による日本人対決となった。
中盤、濱田は小外掛で技有を奪って先制。取り返したい梅木は、しっかりと組んで機会を窺う。試合開始2分12秒、濱田はさらにポイントを追加しようと内股を仕掛けるが、梅木は堪え、隅落で返して一本勝。梅木が逆転勝ちで優勝に輝いた。

残すことができて良かったです。決勝は先にポイントを取られながらも、焦ることなく冷静にできたことが結果に繋がったと思います。今は濱田選手を追いかけていく立場ですが、挑戦者として自分を追い詰めるのではなく、楽しい気持ちを持って上まで登り詰めていきたいです」

◆東京五輪への道

今後、東京五輪日本代表選手の選考方法は2段階に分かれる。

2019年12月のワールドマスターズ青島^{（中国）}、2020年2月のグランドスラム・パリ、グランドスラム・デュッセルドルフでの成績を考慮し、強化委員の3分の2以上の賛成があった場合、その選手を代表選手として内定する。

ここまでで内定していない階級については、2020年4月に行われる全日本選抜体重別選手権終了後の強化委員会で開催される。ここでは強化委員会出席者の過半数の賛成で代表内定となり、結果が同数の場合は強化委員長の決定に委ねられる。

【大会結果】

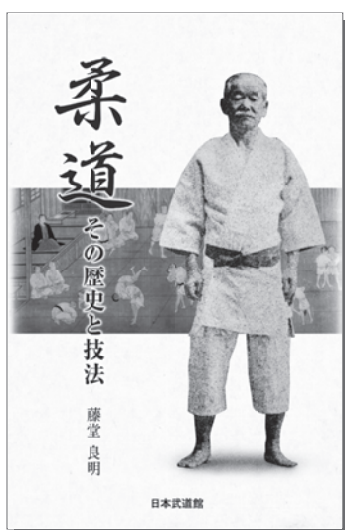
◆男子	優勝	2位	3位	日本選手
60 kg級	高藤直寿（パーク 24）	永山竜樹（了徳寺大学職）	W.Kim（韓国） Y.Yang（台湾）	青木 大（パーク 24）＝5位 古賀玄暉（日本体育大）＝2回戦敗退
66 kg級	阿部一二三（日本体育大）	丸山城志郎（ミキハウス）	相田勇司（國學院大） 西山祐貴（警視庁）	
73 kg級	海老沼匡（パーク 24）	橋本壮市（パーク 24）	O.Ganbaatar（モンゴル） S.Makhmadbekov（タジキスタン）	立川 新（東海大）＝5位 原田健士（日本体育大）＝5位
81 kg級	永瀬貴規（旭化成）	藤原崇太郎（日本体育大）	T.Tepkaev（ロシア） F.De Wit（オランダ）	友清 光（国士館大）＝5位 佐々木健志（ALSOK）＝3回戦敗退
90 kg級	B.Gviniasvili（ジョージア）	D.Bobonov（ウズベキスタン）	向翔一郎（ALSOK） D.Gwak（韓国）	長澤憲大（パーク 24）＝5位、村尾三四郎（東海大）＝7位 ペイカー・茉秋（日本中央競馬会）＝3回戦敗退
100 kg級	羽賀龍之介（旭化成）	E.Gasimov（アゼルバイジャン）	ウルフ・アロン（了徳寺大学職） 飯田健太郎（国士館大）	西山大希（日本製鉄）＝7位
100 kg超級	I.Tasoev（ロシア）	太田彪雅（東海大）	影浦 心（日本中央競馬会） A.Yusupov（ウズベキスタン）	熊代佑輔（ALSOK）＝5位 香川大吾（ALSOK）＝5位
◆女子	優勝	2位	3位	日本選手
48 kg級	渡名喜風南（パーク 24）	J.Figueroa（スペイン）	角田夏美（了徳寺大学職） 古賀若菜（南筑高）	近藤亜美（三井住友海上）＝5位
52 kg級	A.Buchard（フランス）	阿部 詩（日本体育大）	志々目愛（了徳寺大学職） 前田千島（三井住友海上）	内尾真子（自衛隊体育学校）＝1回戦敗退
57 kg級	玉置 桃（三井住友海上）	C.Lien（台湾）	S.Dorjsuren（モンゴル） J.Klimkait（カナダ）	芳田司（コマツ）＝5位、舟久保遥香（三井住友海上）＝5位 鶴岡来雪（コマツ）＝3回戦敗退
63 kg級	土井雅子（JR 東日本）	幸田奈々（帝京科学大）	田代未来（コマツ） 鍋倉那美（三井住友海上）	
70 kg級	大野陽子（コマツ）	K.Polling（オランダ）	新井千鶴（三井住友海上） G.Scoccimarro（ドイツ）	新添左季（自衛隊体育学校）＝2回戦敗退 田中志歩（環太平洋大）＝1回戦敗退
78 kg級	梅木真美（ALSOK）	濱田尚里（自衛隊体育学校）	泉 真生（コマツ） F.Posvite（フランス）	和田梨乃子（三井住友海上）＝5位
78 kg超級	素根 輝（環太平洋大）	I.Ortiz（キューバ）	朝比奈沙羅（パーク 24） B.Souza（ブラジル）	富田若春（コマツ）＝5位 児玉ひかる（東海大）＝1回戦敗退

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法</p> <p>体術の起こりと技法</p> <p>組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法</p> <p>講道館柔道の創設と技法</p> <p>嘉納治五郎の乱取開発</p> <p>講道館柔道の行事と整備</p> <p>警視庁武術大会の勝利と技法</p> <p>学校体操への柔道導入の試み</p> <p>学校における柔道普及の実態</p> <p>高専柔道の起こりと技法</p> <p>嘉納治五郎の他武道への接近</p> <p>精力善用国民体育の創案と技法</p> <p>全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法</p> <p>第二次大戦中の柔道界と技法</p> <p>第二次大戦後の柔道禁止と復活</p> <p>格技柔道から武道柔道へ</p> <p>女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法</p> <p>竹内流腰廻</p> <p>関口新心流柔術</p> <p>起倒流柔術</p> <p>起倒流柔道</p> <p>直信流柔道</p> <p>真之神道流柔術</p> <p>天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題</p> <p>柔道技法の変遷と特徴</p> <p>柔道の国際的普及と発展</p> <p>段位制度の国際比較</p> <p>柔道の国際化と課題</p> | |

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

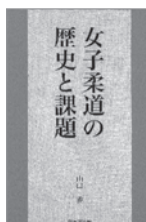


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

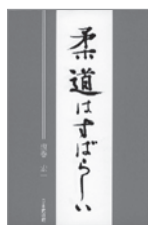


武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)



武道祭 2019 in 横浜

厳かに 盛大に 演武を披露

天皇陛下御即位奉祝の集いを併催

「武道祭2019—UNIVERSAL BUDO FESTIVAL in YOKOHAMA 2019—」が昨年11月24日、神奈川県民ホールで3700名が出席し開催された。本イベントはオリンピック・パラリンピック東京大会の開催にあたり、日本の伝統文化である「武道」の魅力の世界の人々にアピールするためのプログラム「武道祭2020—BUDO FESTIVAL—」（8月23日・横浜武道館（2020年7月竣工））のプレイベントとして実施された。また、今回は天皇陛下の即位を記念し、天皇陛下御即位奉祝式典も同時開催した。

●天皇陛下御即位奉祝式典

はじめに天皇陛下御即位奉祝式典が開催された。最初に横浜雅楽会の演奏と舞による舞楽「延喜楽」が披露された。

続く奉祝式典では、斎藤文夫奉祝委員会副会長兼日本会議神奈川会長が開式の辞を述べた。

「本日、天皇陛下御即位奉祝の集いに各地から参加した皆様方に厚く御礼を申し上げます。10月23日に天皇陛下は御即位を宣明になさいまし



雅楽「延喜楽」(横浜雅楽会)



斎藤文夫
奉祝委員会副会長



上野隆
奉祝委員会会長



天皇陛下御即位奉祝の聖寿万歳



山谷えり子
武道祭2020実行委員会会長

た。そして11月14日・15日には大嘗祭が行われました。全ての行事が無事に終わり、本日、天皇陛下御即位奉祝の集いが開催できますことを宣言します」

さらに、奉祝委員会会長の上野隆、神奈川県商工会議所連合会会長が挨拶を述べた。

「先の即位礼正殿の儀におかれまして御即位を国内外に発せられました。新しい令和の御世を豊かにしていくためには国民一人一人が立場を尽くし、世界の平和のために貢献していくことが何より大事だと感じております。人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つのだと思います。令和の御世に私たちは一致団結して希望溢れる国づくりに邁進することを誓い申し上げます」

その後、奉祝委員会の委員による挨拶が順次行われた。次に、武道祭2020実行委員会会長の山谷えり子参議院議員が挨拶した。

「5月2日、私はアメリカのホワイトハウスに伺いました。そこでアメリカの政府高官より、『日本は人々の調和がとれ、長い歴史を持った美しい国ですね』と言われました。そ

のような感想をいただけたのは道の心とともに歩んできた日本だからだと思っています。この式典に続いて武道祭が行われ、武道11種目の皆様が演武をなさいます。文武両道で歴代の天皇陛下とともに丁寧に道を求めて歩んできた日本人の心を喜びたいと思います。道を求めて精進するというのが姿勢が世界の人々にも広まりつつあります。この国柄を喜び、日本国の発展、世界の発展、皇室の弥栄を強く祈念したいと思います」

祝電披露、天皇陛下即位記念映画の鑑賞会、聖寿万歳と続き、閉式の辞で式典は終了した。その後、気迫に満ちた和太鼓演奏が行われ、観客は大いに盛り上がりを見せた。



和太鼓演奏(風だまり)



③剣道2



⑤なぎなた



①弓道



④相撲

●武道祭

天皇陛下御即位奉祝式典に続いて武道祭の開催となった。はじめに長谷川欣一^{ひきめ}神奈川県武道連絡協議会会長が弓道・慕目^{ひきめ}の儀を行い、武道祭が開幕した。

演武順は以下の通り。

- ①弓道、②剣道1(巻藁^{まきわら}試し斬り)、③剣道2(基本稽古)、④相撲、⑤なぎなた、⑥銃剣道、⑦柔道、⑧合気道、⑨空手道1(板割り)、⑩日本拳法、⑪スポーツチャンバラ、⑫少林寺拳法、⑬空手道2(ウンスーの団体形)

今回は、柔道の演武のあと、山下泰裕公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)会長より、ビデオメッセージが披露された。また、合気道の演武後には山谷実行委員会会長が登壇し、演武した子どもたちに演武の感想や稽古について質問をする場面もあった。

演武の終了後は、その場で141名の演武者全員の氏名が読み上げられ、観客から惜しめない拍手が送られ、武道祭は盛会裡に幕を閉じた。



⑦柔道



⑬空手道2



⑫少林寺拳法



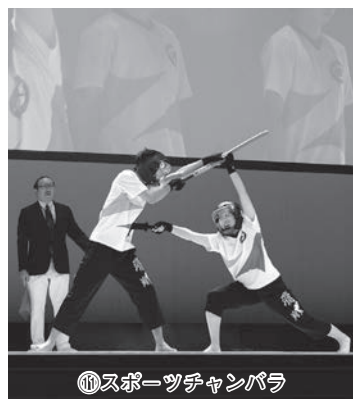
⑥銃剣道



⑩日本拳法



⑧合気道



⑪スポーツチャンバラ



⑨空手道1



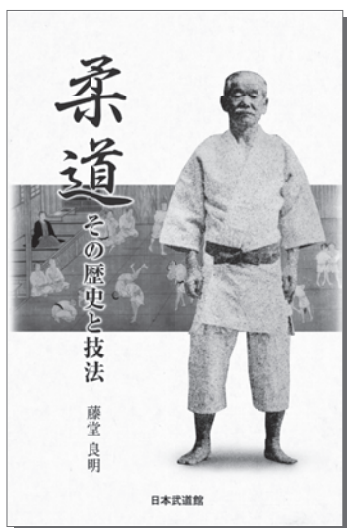
②剣道1

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた*武道としての柔道、を見失わないでいたきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法	第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法	第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法
第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術	第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題	



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長

向井幹博

(むかい みきひろ) 著

役に
立つ

少年柔道指導法

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

DVD付き

役に
立つ 少年柔道指導法

向井 幹博



少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 第1部 解説編 | 第9章 少年柔道の未来のために |
| 第一章 少年柔道は柔道指導の原点 | 第二章 実技編 |
| 第二章 基本動作の指導 | 第一章 礼法の指導 |
| 第三章 技の指導 | 第二章 受け身の指導 |
| 第四章 教育の中の柔道 | 第三章 基本動作の指導 |
| 第五章 指導の工夫 | 第四章 トレーニング法の指導 |
| 第六章 少年規定の変遷と問題点 | 第五章 柔道の練習法 |
| 第七章 柔道の安全指導 | 第六章 投技の指導 |
| 第八章 東日本大震災への講道館の対応 | 第七章 固技の指導 |

A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

新潟県初の県立武道館誕生

謙信公武道館(新潟県立武道館)

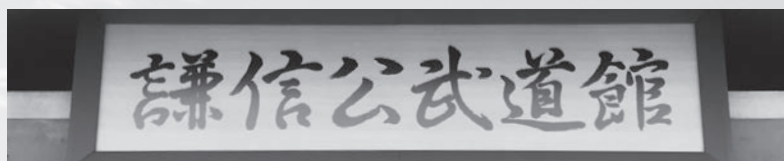


今年度、全国都道府県立武道館協議会（全国の都道府県立・市町村立武道館相互の連携を図り、武道の普及・振興を推進するために日本武道館が中心となって結成）に加盟した謙信公武道館（新潟県立武道館）が昨年12月1日、新潟県上越市に竣工した。これを祝して、同日、竣工式典およびオープニングイベントが謙信公武道館で開催された。竣工式典には県内外から約120名の来賓が参列。オープニングイベントには約3千名が集まり、新潟県初となる県立武道館の開館を祝った。

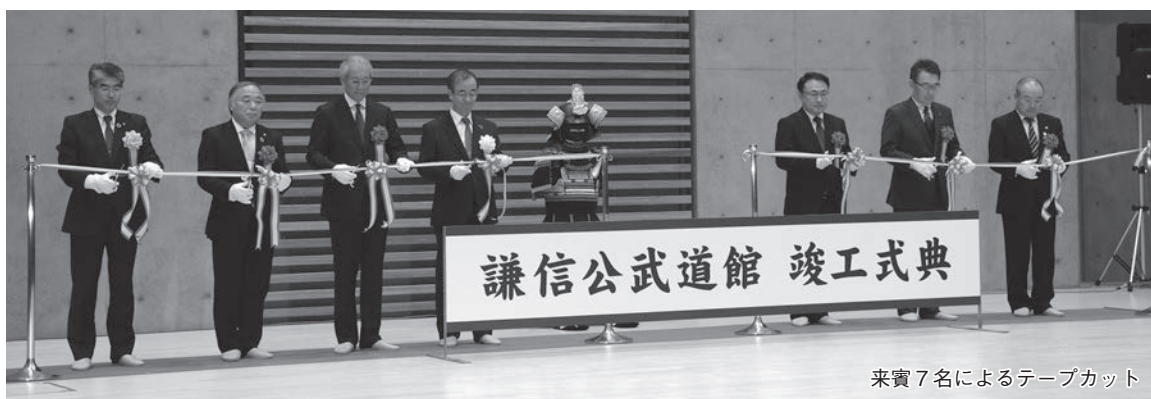
午前10時より、大道場で竣工式典が執り行われた。

はじめに、花角英世新潟県知事が「着工から2年、大道場や小道場をはじめ、弓道場、相撲場も兼ね備えた、北信越最大規模となる総合武道館が本日竣工いたしました。ここ上越地方では、戦国武将・上杉謙信公が人々から敬愛されてきたという土地柄もあり、公募によって『謙信公武道館』と名付けられました。今後は本施設を拠点に、武道の裾野を広げ、地域の活性化を図り、世界に羽ばたく子どもたちをここで育てたいと考えております」と式辞を述べた。

次に、謙信公武道館の整備・運営事業に携わるPFI事業者（PFI事業Ⅱ公共施設の建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力及び技術力を活用して行う手法）を代



正面玄関に掲げられた大看板。「謙信公武道館」の文字は米澤藩主第17代上杉邦憲当主が揮毫した



来賓7名によるテープカット

表して鹿島建設の芦田哲也^{あしたつや}北陸支店執行役員支店長が「7社で構成される特別目的会社PFI新潟県立武道館サービスは、各社の力を結集して今日まで取り組んできました。本日を迎えられるのは皆様方のおかげでございます。ここに御礼申し上げます」と挨拶を行った。その後、来賓祝辞、祝電披露と続いた。

竣工式典終了後、場所を正面ロビーに移し、頸城地区^{くびき}（新潟県上越地方）に伝わる祝い歌「頸城松坂」が披露され、テープカットに移った。

村山秀幸上越市長ら来賓7名が、会図に合わせてテープを切ると、会場からは大きな拍手が起こった。

その後、内覧会となり、来館した3千名に各設備が公開された。

正午からは、小道場でシドニー五輪柔道競技100kg超級銀メダリストの篠原信一^{しのはらしんいち}氏によるトークショーが開催された。常設の観客席と畳部分合わせて約600平方メートルの会場は満杯。篠原氏は自身の柔道人生をユーモア溢れる^{あふ}トークで解説し、和やかな雰囲気であつという間に1時間が過ぎた。

続いて、大道場で県立高田北城高



県立高田北城高校書道部による書道パフォーマンス



シドニー五輪銀メダリストの篠原信一氏のトークショー



立見が出るほど多くの観客が訪れた



武道演武（弓道）



空手道の形演武を披露する
高野万優さん



多くの参加者が楽しく参加していた武道体験会



校書道部による書道パフォーマンスが行われた。その後、新潟県長岡市出身の高野万優さん（全日本少年少女空手道選手権大会女子形の部で史上初の6連覇達成）の形演武を皮切りに、相撲、合気道、空手道、柔道、なぎなた、銃剣道、少林寺拳法、太極拳、スポーツチャンバラ、剣道、テコンドー、弓道の12種目（演武順）

の演武が行われた。約1千席の観客席は満席となり、立見も多数。各武道の演武が終わるごとに、会場は大きな拍手に包まれた。

演武会終了後は、各ブースに分かれて武道体験会を実施。体験会ではスタンプラリーも行われ、子どもたちを中心に、多くの老若男女がごぞつて体験していた。

午後4時45分に武道体験会は終了。一連のオープニングイベントは盛会のうちに幕を閉じた。

▽三宅紗由里 謙信公武道館館長

「あつという間に建物が完成し、県内の多くの武道関係者と繋がりができて、ここからがスタートだと実感しております。新潟県初の県立武道館として、ここを起点に、県内の武道の活性化を図り、武道がさらに大きく広がってくれたらと思います」



■ 謙信公武道館（新潟県立武道館）施設概要



① 大道場＝固定席、車イス席合わせて1,074席の観客席を完備。面積は2147.84㎡で、北信越で唯一、柔道・剣道の公式試合場8面を確保できる。また、床輻射式冷暖房（床下に空気を流して床の温度を調節する）を導入し、床自体を温めることで怪我を防ぐ

② 小道場（板張り）＝剣道の試合場2面を確保。大道場と同様、床輻射式冷暖房を導入

③ 小道場（畳敷き）＝柔道の試合場3面を確保。206席の観客席と車イス用の2席を設置している

④ 相撲場＝本土俵と練習用土俵を一面ずつ設置。観客席200席と車イス用の2席を設けている

⑤ 弓道場（近的）＝12人立。観客席90席と車イス用の2席を設置

⑥ 弓道場（遠的）＝6人立。観客席30席を設置

▷ 所在地：新潟県上越市大字戸野目古新田

375番地（上越総合公園内）

▷ 連絡先：TEL 025-520-8897

FAX 025-520-8898

▷ 指定管理者：株式会社 PFI 新潟県立武道館サービス

▷ 建築概要

敷地面積：22,950.47㎡

建築面積：8,508.35㎡

延床面積：13,035.99㎡

階数：地上2階

構造：SRC 造＋S 造

▷ 屋外施設概要

駐車場：300台（うち車イス用10台）

駐輪場：自転車265台

原付・自動二輪車46台



好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『魂』は生きるための生命力——
『魂』は人間を善に導く原動力——

魂魄（こころ）が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができ、
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

—魂魄（こころ）を育てる—

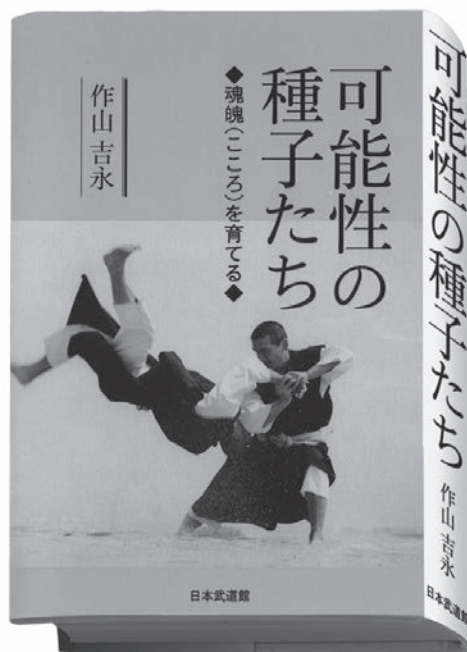
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

（四六判・上製・338頁）

主な目次

- 第1章 少林寺拳法／第2章 直心是道場／第3章 師事／
- 第4章 マイ・アメリカ／第5章 可能性の種子、芽吹く／
- 第6章 嵩山少林寺／第7章 魂魄（こころ）を育てる／
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



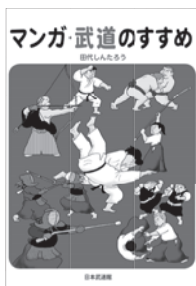
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！



外部指導者を活用した中学校武道授業

滋賀・茨城

「武道推進モデル校」で 複数種目を実施

(銃剣道／なぎなた)

本年度、スポーツ庁は外部指導者を活用して複数の武道種目を選択する「武道推進モデル校」の事業を計画し、実践研究を行い、委託先の31の都道府県・政令指定都市教育委員会がモデル校99校を選定している。

スポーツ庁は、昨年度から「武道等指導充実・資質向上支援事業」を立ち上げ、様々な取組を行っている。その取組のうち、今年度から、「多様な武道等指導の充実」を新たなテーマに掲げ、外部指導者を活用した武道授業における複数種目の実践研究を行い、武道等指導の充実を図っている。

本研究では実践した成果を全国へ発信し、多くの子どもたちが武道に親しみをもち、我が国固有の伝統文化である武道への理解を高めることを目標としている。

「武道推進モデル校」に決定した中学校のうち滋賀県高島市立朽木中学校、滋賀県彦根市立中央中学校、茨城県小美玉市小川南中学校の3校で昨年11月、実践研究授業が行われた。今回は3校の授業の様子について紹介したい。

滋賀県高島市立朽木中学校(実施種目Ⅱ従来の柔道に加えて銃剣道を実施)

昨年11月18日午前、高島市立朽木中学校で銃剣道の授業が行われた。

外部指導者として小林久眞滋賀県銃剣道連盟会長他2名、全日本銃剣道連盟連盟から鈴木健副会長兼専務理事、衛藤敬輔事業部次長が参加。スポーツ庁の伊藤賢政策課学校体育室室長ら2名が視察した。

本校では1・2学年16名が10月11月にかけて柔道授業を6時間実施した後、体験授業として、11月18日に銃剣道の授業を2時間実施した。

●授業内容

▽1時限目

初めに、『日本武道協議会設立四十周年記念中学校武道必修化指導書』の銃剣道のDVDを視聴し、小林講師より銃剣道の起源や歴史、用具についての説明があった。次に、生徒たちは慣れない動きに戸惑いながらも一つ一つの動作を確認しながら礼法の手順を学んだ。

続いて、木銃を使った実践に入った。基本である構えと直れの姿勢を学習し、前後左右の足捌きの練習

後、講師陣による試合形式の演武を見学し、1時限目が終了した。

▽2時限目

構えた状態での送り足を習得するために、左足で雑巾を踏み、木銃の代わりに手拭を持った姿勢でのグループ対抗送り足リレーを行った。ゲーム形式ということもあり、生徒たちは大いに盛り上がった。突きの練習を行ったあと、木銃で新聞紙を突く練習を行った。生徒たちは新聞紙を突く感覚を確かめながら楽しそうに練習していた。

最後に、用具を着けた講師を実際に突く練習を行った。

授業を終えた生徒は「リレーや新聞紙を突いたりして面白かった。銃剣道に興味が湧いた。実際の演武は迫力があってすごいと感じた」と感想を語り、銃剣道に好印象を持ったようだった。

○授業を視察した伊藤賢スポーツ庁政策課学校体育室室長の話

「生徒のみなさんは銃剣道の授業が初めてだと思いますが、授業の構成



木銃を持った礼法を学習



小林講師が銃剣道の起源と歴史を説明



用具を着けた講師を突く練習



送り足りレーの様子



新聞紙を木銃で突く練習

「武道複数種目の実施に当たり、
県・市の教育委員会と連携し、全日

剣道連盟会長の話

○指導にあたった小林久眞滋賀県銃
「指導に当たっては、このように事例を参考に他の学校でも
複数種目の授業を実施する機会を増
やしていければと思います」

として『礼』の作法から、送り足な
どの基本動作までしっかり指導され
ており、スムーズに授業が進んでい
ると感じました。また、安全面にも
配慮された授業だと思いました。生
徒のみなさんも非常に真摯に授業に
取り組んでいると感じました。
授業時間が限られている中で指
導計画を立てるのは非常に難しいと
思います。スポーツ庁としては、こ
のような事例を参考に他の学校でも
複数種目の授業を実施する機会を増
やしていければと思います」

本銃剣道連盟の説明により県教育委
員会担当主事の先生に銃剣道の授業
について理解をいただき、実施の運
びとなりました。中学校の生徒たち
に授業を行うのは初めてですが、今
まで少年・成年を指導した経験と指
導者研修会を受講した内容を参考に
授業計画を作成しました。

実際の授業では、銃剣道の起源と
歴史を説明したとき、生徒がメモを
とる姿を目にし、素直に授業を受け
る姿勢に銃剣道の魅力を伝える使命
感を感じました。銃剣道を体験して
もらうという所期の目的は達成でき
たと感じています。今回の授業を通
して、生徒には基本動作、そして試
合ができるようになるまでの流れを
理解させ、その上で、直突の授業に
移る必要があると感じました。

今後の課題は今回の授業内容を見
直し、短時間で、より効果的な授業
計画を作成し、魅力ある銃剣道を教
える必要があると思います。そし
て、もっと多くの中学生が銃剣道を
体験し、知ってもらうことが銃剣
道、さらには武道全般の発展につな
がると信じて、今後も活動を展開し
ていきたいと思っています」

滋賀県彦根市立中央中学校実施種目Ⅱ従来の剣道に加えてなぎなたを実施



なぎなたを持って素振りの練習

同日午後には彦根市立中央中学校でなぎなたの授業が行われた。全日本なぎなた連盟（全な連）では、中学校武道必修化プロジェクトチームが「授業協力者（外部指導者）養成講習会」を行い、授業実施をサポート

トしている。授業では外部指導者による授業内容を振り返り、改善を図るため、滋賀県なぎなた連盟から北村由美子氏の他、全な連の今浦千信常務理事も指導者として出席した。同校では剣道を9月～11月にかけて8時間実施した後、この日、体験授業として1学年1クラス27名がなぎなたを1時間実施した。

授業内容としては、初めに体育館をランニングした後、全な連監修の紹介ビデオ「楽しいなぎなたの授業・指導の手引き」を視聴。次に実践として礼法、なぎなたの持ち方、足捌き、中段からのメン、スネの素振りを行った。授業を受けた生徒たちは、初めて持つなぎなたに戸惑いながらも、テンポよく進む授業に楽しく取り組んでいた。

授業を行った今浦氏は「今回の授業で生徒の声と輝く目が印象的でした。次年度へ向け、さらに指導法を研究して、なぎなたの素晴らしさを伝えられるように研鑽（けんさん）していきます」と語った。

茨城県小美玉市立小川南中学校実施種目Ⅱ従来の柔道に加えて銃剣道を実施



銃剣道の実際の試合を見学

昨年11月29日午後、小美玉市立小川南中学校で銃剣道の授業が行われた。本授業では外部指導者として地頭蘭講師他15名が招かれた。本校では1学年91名が銃剣道の前に、10月から11月にかけて柔道を10時間実施。また、当日はスポーツ庁の伊藤賢政策課学校体育室室長、関伸夫同課教科調査官ら3名の他に石井兼輔国際武道大学教授、荒川尊祐同大学特任准教授も視察した。

●授業内容

▽5時限目

地頭蘭講師より銃剣道の成り立ちと歴史のほか、用具、木銃の構え方について説明があった。その後、銃剣道の競技説明として、手本を見せて実際に試合を披露した。

次に黙想について学習した。まず、黙想する際に重要な精神統一、腹式呼吸のやり方を説明し、1分程度の黙想を行った。

その後は木銃を使った実践に移った。まず、地頭蘭講師から銃剣道の体の動かし方について全体説明を受けた後、各グループごとに練習に移った。生徒たちは木銃を実際に持つことで非常に楽しそうに授業に取り組んでいた。次に木銃の持ち方、構え方を学習した後、「構え」「直れ」の号令に合わせて体を動かす練習を行った。

▽6時限目

6時限目は、足捌きの練習からスタート。①前後の送り足②左右も含めた送り足③一定のリズムをつけて



体の動かし方について学習



生徒全員で黙想



各グループごとに突きの発表



木銃の構え方について学習する生徒たち

前後左右の送り足④横一列ごとに送り足の連続で移動——の順に行った。次に、突き方の説明が行われ、一定のリズムで突く練習をした。そして地頭園講師の号令に合わせて突く実践、掛け声を入れて突く練習、連続して突きを入れる練習をした後、送り足で一列ごとに前進しながら突く練習をした。さらに、各グループについての講師を実際に突く練習が行われた。

最後のまとめとして、各グループごとに突きの発表を行い、代表の生徒が全員の前で突きを披露し、黙想を行い、授業が終了した。

○授業視察した石井兼輔国際武道大学教授の話

「2時間という制限の中で授業構成がまとまっており、上手く流れを作っていたと感じました。生徒たちが用具を持った時に非常に楽しんでいた姿が印象的でした。柔道や剣道はメディアなどから入る情報が多いものの、銃剣道は情報が少ない種目です。授業であれだけ生徒を引き付けられたのは、しっかり準備を重ねてきたからでしょう。今後は学校の先生も授業で武道を教えられる教

材や資料を作成し、武道必修化をさらに進めていく必要があります」

○久保田英行小美玉市立小川南中学校校長の話

「複数種目実施というのは大変貴重な経験となりましたが、外部指導者の方々の手配や木銃の用意をどのようにするかなど、課題は多くあると思います。このような課題の解決を来年に繋げていきたいと思っています」

○佐藤良太同校体育科教諭の話

「我が校は生徒たちへ事前に柔道を10時間学習させ、今回の授業を実施しました。様々な種目を生徒に触れさせることは有意義な授業だったと思います。生徒たちも非常に意欲的に学習しており、銃剣道に興味を持つことができたのではないかなと思います。また、銃剣道は知られておらず、教員にも良い機会となりました。来年も繋^{つな}げていきたいです」

○授業を受けた生徒の話

「最初は銃剣道について何も知りませんでした。木銃も持ってみると実際は重いなと思いました。授業で木銃を持って練習するうちに楽しくなりました。また、機会があったらやってみたいです」

好評発売中

脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

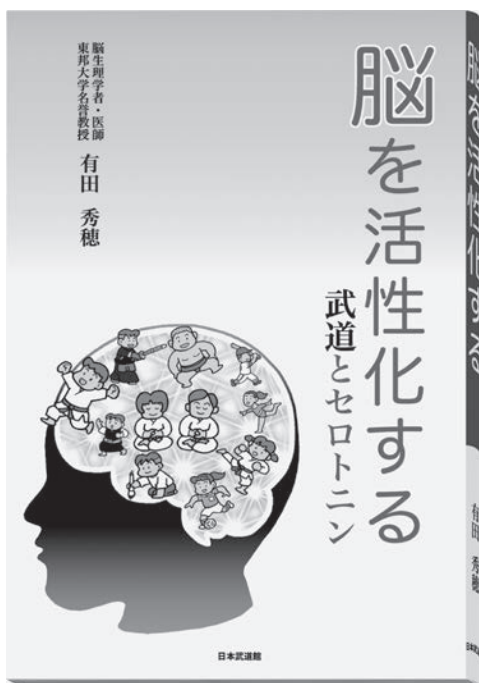
脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。

脳を活性化する

武道とセロトニン



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには?

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長

松永 光

東邦大学名誉教授

有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

武道の全容をこの一冊に集大成！



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

『日本の武道』の英文版(DVD付)



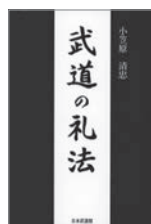
BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

(四六判・上製・320頁)

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・334頁)

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

(四六判・上製・272頁)

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



少年剣士が4部門で競い合った

祝・新元号「令和」制定記念・第2回高杉晋作旗有備館剣道大会 高杉晋作旗めぐり萩市に少年剣士集う

祝・新元号「令和」制定記念・第2回高杉晋作旗有備館剣道大会（主催
Ⅱ旧萩藩校明倫館「有備館」剣道大会実行委員会、後援Ⅱ日本武道館ほか）
が昨年11月30日・12月1日、山口県萩市の旧萩藩校明倫館の道場「有備館」
および萩市民体育館で、少年少女剣士581名が集まり、開催された。

■有備館顕彰記念式典（11月30日）

式典は記念大会の一環として、午前10時より有備館で開始された。神事に続き、横山賢治大会実行委員長により主催者挨拶が行われ、来賓祝辞では、河村建夫日本武道館常任理事・衆議院議員が挨拶に立ち、「武道を中心とした教育は日本人にとって必須のものであり、長州の明治維新発祥の地、萩において、明倫館の下の有備館でこの大会がこれからも継続されることは大変意義があると思います」と述べた。

次に、正司尚義山口県観光スポーツ文化部長が村岡嗣政山口県知事の祝辞を代読した。

「明治という新たな時代を切り開き、現在の日本の礎を築いた先人たちの志や強靱な精神力、実行力は現代においても受け継がれています。令和という新しい時代の幕開けである今年も、有備館に多くの人が集い、今大会が盛大に開催されること

は意義深いものと考えています。明治維新を成し遂げた先人たちが語りあつたここ萩市で交流の輪を広げ、自己研鑽と修練に一層励んでいただきますようお願いを申し上げます」
続いて藤道健二萩市長が挨拶を述べた。

「今年、明倫館は創建300年を迎え、平成から令和へと御代が替わりました。そのような年に今大会が開催されますことをお慶び申し上げます。有備館がこれから代々引き継がれ、剣道の聖地となることを祈っております。剣道は単に勝負を競うのみならず人間形成の場でもあります。人間形成を通じて、萩を、あるいは日本を代表する人物になるよう少年たちを育て上げたいと考えております」
その後、来賓祝辞、来賓紹介、剣道・居合道の奉納演武と続き、式典は閉会した。

式典終了後は萩市民体育館に移動し、友弘浩二剣道教士八段による剣



稽古重視の趣旨のもと開催された剣道教室



藤道健二萩市長



河村建夫日本武道館常任理事・衆議院議員

道教室が行われ、少年剣士たちは基本錬成に励んだ。

■第2回高杉晋作旗有備館剣道大会 (12月1日)

大会は、萩市民体育館で午前9時より開始され、井上伊三郎大会副委員長による開会宣言の後、横山賢治大会実行委員長による主催者挨拶が行われた。

来賓祝辞では河村建夫日本武道館常任理事・衆議院議員が挨拶に立ち、少年剣士たちを激励した。

「この大会は、高杉晋作をはじめとする、明治維新を作った人たちが鍛錬をして体と心を鍛えた、剣術の聖地と名付けられている有備館を記念し、その名を冠した大会です。日々の練習の成果をしっかりと見せて

思い出に残る試合をし、鍛錬していただきたいと思います」

その後、来賓祝辞、来賓紹介、選手宣誓と続き、開会式は終了した。続いて竹刀贈呈式が実施された。

前日に萩市民館で全国の旧藩主が集合して実施された萩藩校明倫館創建300年記念・第17回全国藩校サミット萩大会（主催Ⅱ第17回全国藩校サミット萩大会実行委員会）の連携事業として大会は開催され、旧藩主と来賓により、少年剣士たちへ竹刀が贈呈された。

新しい時代を切り開いた高杉晋作の名を冠した旗を懸け、令和という新たな御代を迎えた少年少女剣士たちは4部門で元氣いっぱい競い合った。



左2人目より、井上伊三郎大会副委員長、小澤智水戸東武館館長、横山賢治大会実行委員長



地元新聞紙に掲載された大会広告
(はぎ時事、2019年11月15日)

◎横山賢治・旧萩藩校明倫館「有備館」剣道大会実行委員長

「大会では稽古重視の観点から、剣道教室を実施しました。また、選手は最低2試合は出場することになっておりますし、隣接する萩市立椿西小学校の体育館で稽古が可能です」



大会には、水戸東武館（茨城県）より小澤智館長が出席した。昨年2月、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長の働きかけにより、小澤館長と有備館を代表して井上伊三郎大会副委員長・萩市剣道連盟顧問との対談が日本武道館において実現。東武館と有備館が武道を通じた交流・連携を図っていくことが決まった（月刊「武道」2019年3月号掲載）。今回の小澤氏出席は、その連携の第一歩となった。

◎小澤智・水戸東武館館長

「萩の武家文化の伝統を感じます。町一体となつてこの大会を開催し、剣道を中心として市全体を振興させたいという関係者の皆さまの思いがよく分かりました。これからもますますのご発展を祈念いたします」

(文責Ⅱ日本武道館普及課)

好評発売中

絵と文 中村 麻美 (なかむら まみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村麻美 (なかむら・まみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼統お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立斎宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひより越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介——我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと筍
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹——母への薬
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子斎王——別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 八俣の大蛇
- 十五 川中島の戦い——謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光——笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫——夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎——米百俵の精神
- 二十二 島津義弘——関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后——千人のからだを洗う
- 二十四 城戸俊三——勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇と東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 鉢中兼山——海に捨てたはまぐり
- 三十二 野の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春——誓れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村——大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇——祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』



編集・発行 公益財団法人日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か―



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	序章
第一章 稽古照今	第二章 神話的イメージの形成
	第一節 神話的世界の形成と剣神の誕生
	第二節 天より降る剣 師霊剣
	第三節 天地を繋ぐ剣 草薙剣
	第三章 信仰のなかの刀剣思想
	第一節 祀る剣 祀られる剣
	第二節 辟邪の呪剣
	第三節 うけいの呪術と剣
	第四章 修験道と剣
	第一節 三世における刀剣思想
	第二節 三種の神器の不思議
	第三節 『平家物語』にみる三種の神器
	第五章 近世剣術における刀剣思想
	第一節 『太平記』が語る草薙剣像
	第二節 剣術伝書に語られる日本神話
	第三節 新當流にみる霊剣の技術
	第四節 示現流にみる心の利剣
	第六章 近現代における刀剣思想
	第一節 近代以降の刀剣思想
	第二節 古代と現代を繋ぐ刀剣
	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。